

令和5年度宮城県検証改善委員会報告書

令和5年度のテーマ

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて！

全国学力・学習状況調査の結果

学習指導要領の基本方針、「育成を目指す資質・能力の明確化」を受けての授業づくりを！

学校改善

子供理解
学級経営
学校経営

授業改善

国語科の授業
算数・数学科の授業
英語科の授業

index

子供の学びを支援する5つの提言 本紙に関わる URL 等

1

学校改善・授業改善

子供の姿を見取り、子供から信頼されることが大切です

3

伝え合い、学び合う教員文化は、授業改善の土台です

4

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

5

平成31年度から令和5年度までの調査結果から見える児童生徒の実態<算数・数学>

7

国語

全国学力・学習状況調査の結果（小・中学校国語）

9

小学校「読むこと」の授業づくり

11

小学校「書くこと」の授業づくり

13

中学校「書くこと」の授業づくり

15

算数・数学

全国学力・学習状況調査の結果（小学校算数・中学校数学）

17

小学校「図形」の授業づくり

19

小学校「数と計算」の授業づくり

21

中学校「データの活用」の授業づくり

23

英語（外国語活動、外国語）

全国学力・学習状況調査の結果（中学校英語）

25

外国語教育における「小中の連携」の重要性

26

中学校「書くこと」の授業づくり

29

単元構想・学習指導案

単元構想・略案作成（国語）

31

単元構想・略案作成（算数・数学）

34

【提言】これから求められる算数・数学の授業づくり PartⅢ

宮城教育大学 大学院教育学研究科 准教授 市川 啓

37

宮城県教育委員会

子供の学びを支援する5つの提言

～自立した学習者の育成を目指して～

1 子供の声を受け止め、適切な支援をすることで、 安全・安心に学べる環境をつくりましょう

安全・安心な居場所は、子供が充実した生活を送るための土台となります。子供の声を受け止め、個に応じた適切な支援をすることで、教師と子供、子供同士の良好な人間関係づくりに努めるなど、安全・安心に学べる環境をつくりましょう。

2 子供をほめること、認めることで、やり抜く力を育てましょう

子供をほめるときには、子供が努力したことを具体的にほめることが大切です。努力を認めることで、更なる意欲を引き出し、難しいことにも挑戦しようとする気持ちや、目標に向かって努力し続ける気持ちを育てましょう。

3 子供が様々な学び方を知り、主体的に学習ができるように 支援することで、学びに向かう力を育てましょう

子供が様々な学び方を知り、経験することで、見通しを持って学習に取り組んだり、学びを自己調整したりすることができるようになります。子供自身が学びの計画を立て、自由な発想でICTを活用できるようにするなど、自立した学習者として学び続けられるように支援し、学びに向かう力を育てましょう。

4 自分の考えを発表したり、 交流したりする活動を充実させることで、 深い学びにつなげましょう

自分の考えを発表したり、交流したりすることで、一人一人のよい点や可能性が活かされ、異なる考え方が組み合わさり、子供の学びが豊かになります。子供が習得・活用・探究という学びの過程で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、深い学びができるように支援しましょう。

5 家庭学習の質的向上を図るとともに、 読書の時間を増やす働き掛けをしましょう

起床時刻、学習を始める時刻、就寝時刻を定めるなど、生活リズムを整えながら家庭学習の時間を確保するとともに、子供自身が課題を設定したり、ICTを効果的に活用したりするなど、家庭学習の質を高められるように働き掛けましょう。また、家庭や学校で読書の時間を設定するなど、子供が読書に親しむ機会の充実を図りましょう。

本紙・全国学力・学習状況調査に関わる Web サイト

本紙・解説動画

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/kensyokaizen.html>



令和5年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた 学習指導の改善・充実に向けた説明会（国立教育政策研究所）

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/setsumeikai/r05setsumeikai/index.html>



宮城県 個別最適な学びに関するモデル事業

https://www.pref.miyagi.jp/site/gikyou-gak/kobetsu_saiteki.html



教科指導に関わる Web サイト

宮城県総合教育センターM ナビ教育データライブラリ (各教科、校種の学習指導案等が検索できます)

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/mnavi-detalib.html>



宮城県総合教育センター「みやぎ理科支援ナビ」

<https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/science/?ver=2023>



子供との信頼のパイプを太くしていきましょう！

児童生徒質問紙調査より（数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合）

質問番号	質問事項	宮城	全国	差
(小10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	64.5	68.5	-4.0
(中10)		61.1	66.4	-5.3

■子供にとって「何でも相談できる・信頼できる先生」の存在は、授業のみならず学校生活全般を支えます。

- ・困りごとや不安を「何とかできそうだと」、子供自身が思えるような言葉掛けが大切です。
- ・先生から大切にされているという実感や安心感が、子供の「主体性」の基になります。
- ・「子供の考えを大切にする先生の姿」を子供はまねします。
- ・子供同士が、互いの存在を尊重することで「対話」が深まります。

〈子供との信頼のパイプを太くする先生の姿・チェックリスト〉

良い授業のイメージを持っている。

→「そうか！分かったぞ！！」「ちょっと待って、もう少しでできそう」「どっちだ？どっちとも言えそうだ」など、良い授業には「分かる」「考えがいのある問題に取り組む」「対立意見を前にして葛藤する」といった場面があります。学ぶ喜びを味わわせてくれる先生、「必ずできるよ」と勇気付け励ましてくれる先生を子供は信頼し尊敬します。授業は子供との信頼関係を結ぶ生命線です。

子供を褒めるときに、結果そのものより、子供が工夫したことやそれまでの過程に着目している。

→教師が見取るべきは、結果に至るまでの子供の思考過程や、工夫の跡です。子供が成功の予感を抱けるような目標を持たせたり、考える価値のある選択場面に子供を立てて自己決定させたりといった場面を意図的に作りましょう。自分なりの工夫や、一生懸命考えたことを先生に認めてもらうことは、子供にとって励みになり、先生を信頼するきっかけになります。

子供の様子を見取り、丁寧な言葉遣いをしている。

→「最近忘れ物が多い」「朝から表情がさえない」「汚れた服を着ている」など、授業や日常の見取りから「何かあったのかな」と気付くことがあります。また、「悩んでいることがあれば、いつでも話していいからね」という先生の言葉を待っている子供もいます。子供と話す際は、丁寧に穏やかな言葉遣いをしましょう。子供の安心感につながります。

子供との約束を守っている。

→「(授業で)今度、□□するからね」・「(子供の問いかけに対して) ああ、いいよ」—こういうやり取りも、子供にとっては〈先生との約束〉です。日常の中で、気付かずに子供とたくさんの約束をしていませんか？子供は先生との約束を覚えているものです。小さな約束であっても、子供と交わした約束は大切にしましょう。もし約束どおりできないときは、「今日はできなかったけど、明日の〇〇の時間でやろうね」などと、代わりとなる提案をすることが大切です。

子供がどのようなことを大切にしているか、把握している。

→子供には、大切にしている「自分の世界」があります。それは趣味や家族、夢、憧れ、時に空想など様々です。自分が大切にしている世界を、先生も大切にしてくれるのは、子供にとってうれしいことです。授業中の発言、日常の会話などから、子供がどのようなことを大切にしているかキャッチすることができます。

教員同士の会話は大切な研修の場！

児童生徒質問紙・学校質問紙調査より（全国との比較において、かい離が大きかった項目）

上段：小学校 下段：中学校

質問番号	質問事項	宮城	全国	差
(14)	教員が 授業で問題を抱えている場合 、率先してそのこと	36.2	38.0	-1.8
	について話し合うことを行いましたか	23.8	26.4	-2.6
(15)	教員が 学級の問題を抱えている場合 、ともに問題解決に	51.5	55.8	-4.3
	当たることを行いましたか	36.9	43.5	-6.6

教員としての力を高めるために・・・

①「教える授業」中心から、「**児童生徒が自ら学ぶ授業**」への授業改善

- 教師はともすると話をしすぎる傾向があります。児童生徒が中心となる授業づくりに取り組みましょう。

②教員の「**授業の技量**」を高めるための研修会・研究会への参加

- 学校全体で校内研究を充実させるために校内研修会の回数確保し、積極的に公開研究会や研修会に参加しましょう。

③教員同士が自分の学級や授業について「**話す機会・時間**」の確保

- 校内での授業の参観や提供を日頃から行い、互いに学び合う機会を確保しましょう。

互いに学び合える環境づくりに努めましょう

先輩教員から働き掛けてみませんか！

- ・ 授業について**話し合える職場**の雰囲気醸成
- ・ 授業を互いに見合える**環境づくり**
- ・ 自らの授業改善と**学級経営及び授業技術の継承**
- ・ 校務の確実な遂行と**業務改善**

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実

個別最適な学びは、「指導の個別化」と「学習の個性化」から構成されています

(教師視点では「個に応じた指導」)

指導の個別化とは

子供が一定の目標に向かって、自分の学力や特性に合わせて、学習内容や学び方を選択し、基礎・基本となる知識や学び方を身に付ける学び。

そのために教師は

支援が必要な子供に、より重点的な指導を行ったり子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行ったりすることが大切です。

学習の個性化とは

子供が自分の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、自ら学習を発展させ、探究していく学び。

そのために教師は

子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することが大切です。

例えば

中学校第1学年 技術・家庭

「生活に生かすものづくりをしよう」

○一定の目標

「材料の加工方法、工具の使い方などについての知識や技能の習得」

○学習課題を選択

- ・机を整理したいからプリント整理箱を作ろう
- ・家族のためにお風呂の椅子を作ろう
- ・おばあちゃんが使いやすいマガジンラックを作ろう 等

○学び方を選択

- ・教科書を見て、作り方を考えよう
- ・インターネットで作り方を調べよう
- ・のこぎりで真っすぐに切るコツを動画で調べよう 等

単元内自由進度学習

①ガイダンス（子供が単元全体の目標や流れなどの見通しを持つ段階）

教師は、学習の始めに単元の目標、時間数、標準的な学習の流れ、活用できる教材や機会を提示します。

②計画（教師が用意する学習の手引きを参考に、自分で計画を立てる段階）

子供は、興味や学習方法に応じた学びをどう進めるか計画を立てます。

③追究（問いに対し追究を進める段階）

子供たちは個々に学習を進めます。

④まとめ（学習内容と学習方法を振り返る段階）

よりよい学びにするためには、協働的な学びが大切です

個別最適な学びで得た、
知識・技能
思考力・判断力・表現力等

多様な他者との学び
クラスメイト、異学年・他校の子供
地域の人々、専門家等

異なる考え方が組み合わせさり
よりよい学びを生み出す

同じ目標のもと、クラスメイト、異学年や他校の子供、地域の人々、専門家などの幅広い世代の人々と対話しながら、協働で作上げる経験そのものが学びにつながります。

個別最適な学びと協働的な学びを行うためには、ICTを有効に使いましょう

情報端末を活用して情報収集、
データ処理、レポート作成等

アプリを活用して、情報を共有
しながら共同で作成・編集

スタディ・ログを活用した学習

自分の進度に合わせて、
AIドリルで学習

グループチャットで自分の考え
を書き込み、友達の考えと比較

自分に最適なアプリで学習
(アプリは子供が選択)

等

具体的な指導例

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を往還しながら進めていきます

中学校 第1学年 国語「矛盾」
単元の指導計画（3時間扱い）

第1時

- ・本文を読んで漢文調の文体に親しみ、簡単な訓読の仕方を知る。
【一斉】
- ・矛盾の意味を理解するとともに、他の故事成語とその意味を知る。
【指導の個別化】

一斉で学習の
流れを確認する



第2時

- ・自分の体験と合致するような故事成語を選び、起承転結の構成で紹介文を書く。【学習の個性化】

個別最適な学び
それぞれ異なる方法
(情報端末、辞書等)
で課題に取り組む



第3時

- ・前時に書いた紹介文を友達と共有し、良さや改善点を伝え合う。
【協働的な学び】
- ・自分の紹介文を整理し、学習の振り返りを行う。
【学習の個性化】

協働的な学び
友達と交流しながら、
解決に向かう



ポイント 単元における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

個別最適な学び		協働的な学び
<p>〈指導の個別化〉</p> <p>教科書、情報端末、副教材等、自ら選んだ方法で故事成語について調べたり、故事と自分が体験した出来事を結び付けた紹介文を書いたりする。</p>	<p>〈学習の個性化〉</p> <p>故事成語と自分の体験とを結び付けながら、故事成語について興味・関心を深め、広げる。</p>	<p>〈協働的な学び〉</p> <p>互いの体験談と故事成語の結び付きについて、文章の起承転結での構成等の観点で助言し合い、自分の文章の良い点や改善すべき点に気付く。</p>

1時間単位での個別最適な学びと協働的な学びの例 小学校 第1学年 算数「繰り下がりの引き算」



情報端末に直接、考えを書く



ブロックを使って考え、情報共有するためカメラ機能を使う



共有機能を使って、友達のを見たり、比較したりする



疑問に思ったことを友達と考える



集団で考えを共有する

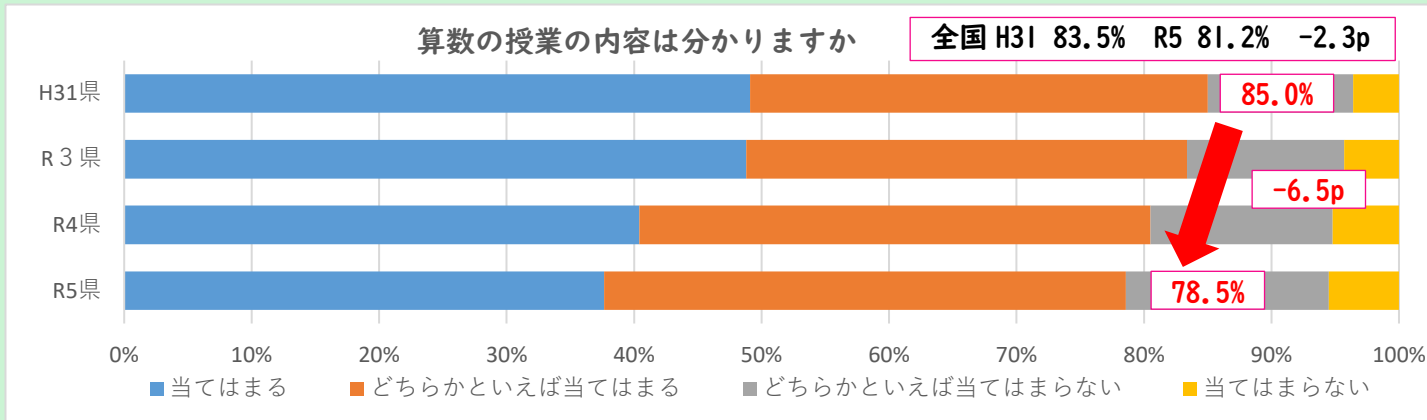
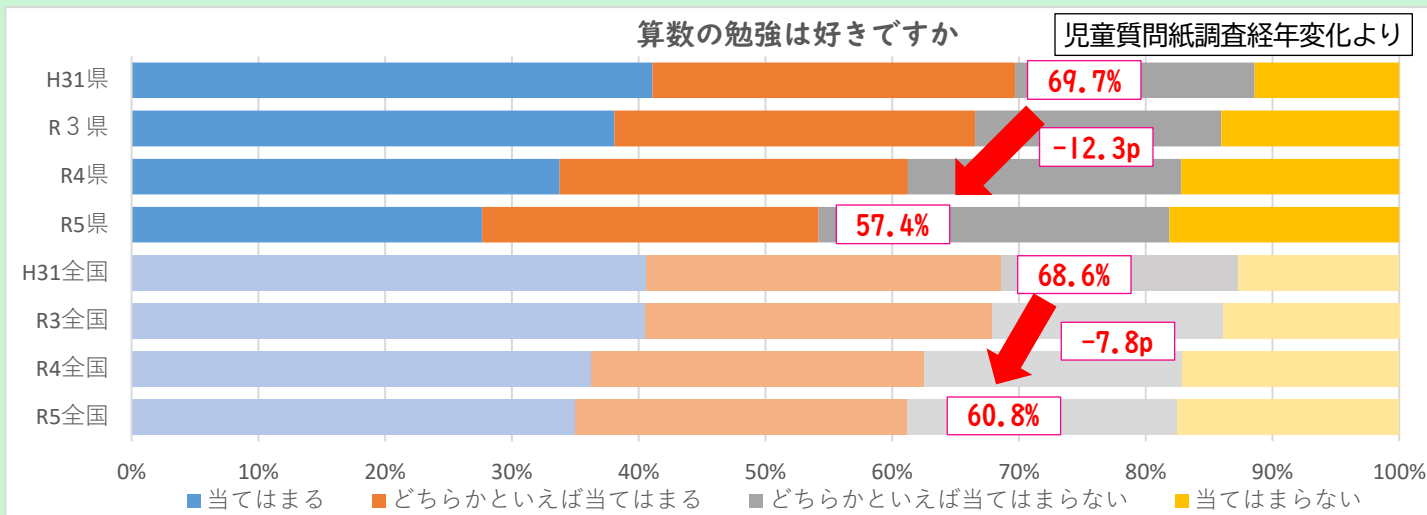
ポイント 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

・デジタルノート ・カメラ機能 ・共有機能 ・スライド機能 ・共同編集機能

平成31年度から令和5年度までの調査結果から見える児童生徒の実態 <算数・数学>

児童生徒の学習意欲は？

算数、または担当している教科について、児童生徒の何%が肯定的（好き、どちらかというとき）に捉えているのでしょうか。算数を例に県全体で見ると、平成31年度調査では、「算数の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的に捉えている児童は69.7%でしたが、年々減少し、今年度調査では、57.4%と最も低くなりました。全国も同様の傾向がありますが、県の方が顕著に低くなっています。また、「算数の授業の内容は分かりますか」の質問でも同様の傾向が見られます。学級の児童生徒や担当している教科の児童生徒の実態を把握することで、一人でも多くの児童生徒が主体的に学びに向かえるようにし、学習意欲の向上を目指しましょう。



児童生徒の学習意欲を向上させるためには

- ペア・トリオ・グループ学習等の**学習形態を工夫**しましょう。
 - 否定的（「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」）な児童生徒は、その教科を苦手としている傾向があります。自分の考えや意見が言えず、一方的に聞くだけだったらどのような気持ちになるのでしょうか。また、得意としている児童生徒は、答えを教えるだけになっていないのでしょうか。苦手な児童生徒は、分からないことを友達に伝え、得意な児童生徒は、理由や考え方を図やグラフ等を使いながら分かりやすく伝えるようにし、学び合う形態を工夫しましょう。
 - 児童生徒の**得意な領域を増や**していきましょう。
 - 計算が苦手な児童生徒でも、図形を得意とする場合もあります。できないことに目を向けるだけでなく、得意なことを更に伸ばし、苦手な領域につなげられるようにしましょう。また、得意なことは更に好きにさせるように、できたことや努力したことなど褒めていきましょう。
- ※ 手立てや支援等はすぐに効果として表れないこともあります。**長い期間を掛けて、根気強く指導**していきましょう。

平成31年度からの算数・数学の経年変化から

下の表は、平成31年度から令和5年度までの算数・数学の調査結果を、正答率、領域別、観点別、問題形式別にまとめたものです。囲みは、特に全国とのかい離が大きいものです。なお、領域名や観点名が異なるのは、学習指導要領が改訂となったためです。
 ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染予防対策として、調査を中止。

1 小学校算数 全国とのかい離

※赤字は、正答率のかい離より差が同等(0.5)より大きいもの。例：令和5年度正答率のかい離4.5ポイント、領域別(数と計算5.0)

年度	正答率%		領域別										観点別				問題形式別					
	県	全国とのかい離	数と計算		図形		測定		変化と関係		データの活用		知識・技能		思考・判断・表現		選択式		短答式		記述式	
			県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離
令和5	58	-4.5	62.3	-5.0	43.4	-4.8			66.4	-4.5	62.1	-3.4	63.4	-3.8	50.7	-5.8	52.9	-4.8	71.3	-3.4	40.4	-6.9
令和4	58	-5.2	65.6	-4.2	58.5	-5.5			46.9	-4.4	62.7	-6.0	64.1	-4.1	51.0	-5.7	47.5	-4.3	72.7	-3.8	53.3	-6.9
令和3	66	-4.2	59.0	-4.1	51.2	-6.7	72.0	-2.8	71.5	-4.4	72.3	-3.7	69.7	-4.4	60.8	-4.3	72.1	-3.9	71.1	-4.7	48.4	-4.6

年度	正答率%		領域別										観点別				問題形式別							
	県	全国とのかい離	数と計算		図形		量と測定		数量関係		資料の活用		数学的な考え方		技能		知識・理解		選択式		短答式		記述式	
			県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離
平成31	64	-2.6	61.2	-2.0	76.0	-0.7	47.3	-5.6	65.5	-2.8			58.5	-3.7	72.7	-0.9	68.7	-1.4	74.1	-1.6	71.2	-1.6	42.6	-4.8

小学校では、次のことが課題と言えます。

領域別では、図形領域に課題がある。また、観点別では、思考・判断・表現に課題があり、問題形式別では記述式の問題形式に課題がある。

2 中学校数学 全国とのかい離

年度	正答率%		領域別										観点別				問題形式別					
	県	全国とのかい離	数と計算		図形		関数		データの活用		資料の活用		知識・技能		思考・判断・表現		選択式		短答式		記述式	
			県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離
令和5	44	-7.0	56.4	-6.6	27.6	-5.6	45.0	-6.2	39.5	-9.0			49.0	-6.7	34.7	-6.9	38.5	-6.8	55.9	-6.7	34.7	-6.9
令和4	45	-6.4	46.8	-10.6	39.5	-4.1	37.2	-6.4	53.8	-3.3			52.4	-7.5	30.7	-5.5	47.9	-4.7	56.0	-9.7	30.7	-5.5

年度	正答率%		領域別										観点別				問題形式別							
	県	全国とのかい離	数と計算		図形		関数		資料の活用		資料の活用		数学的な考え方		技能		知識・理解		選択式		短答式		記述式	
			県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離	県	全国とのかい離
令和3	52	-5.2	57.9	-7.0	46.2	-5.2	54.0	-2.4	49.5	-4.3			36.3	-4.8	69.3	-8.4	62.1	-3.5	47.3	-5.1	65.8	-4.7	29.5	-5.5
平成31	55	-4.8	59.0	-4.8	68.7	-3.7	33.1	-7.7	51.0	-5.3			47.1	-3.9	54.3	-9.6	66.9	-4.4	57.2	-3.1	59.4	-7.2	43.0	-4.1

中学校では、次のことが課題と言えます。

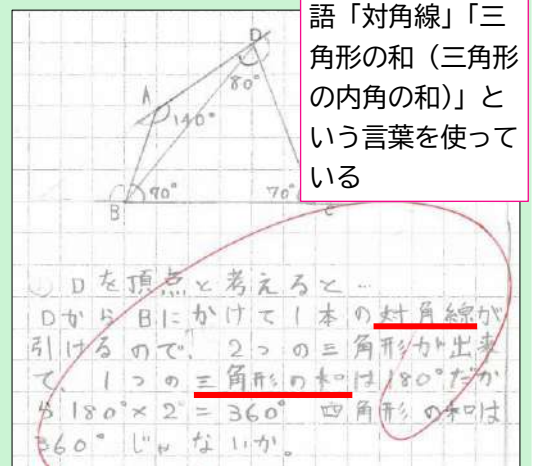
領域別では、4年連続、数と計算領域が全国とのかい離が大きい。また、観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも課題であり、問題形式別では短答式のかい離が大きい。

さらに、問題別で調べてみると、小・中学校とも、算数・数学用語や決まり、性質をしっかりと理解していない児童生徒が多いことが分かりました。例えば、小学校では、三角形の「底辺」と「高さ」や分配法則などです。中学校では、素因数分解や自然数を求める問題などです。また、求め方を記述する問題は、正答率が低く、無解答率が高い傾向にあります。

そこで小学校低学年から、求め方の方法をノートに書かせ、書くことに慣れさせる必要があります。また、学習した算数・数学用語や決まり、性質などは繰り返し指導していくことも重要です。「一度教えたから児童生徒は理解している」という考えではなく、「定着が難しいから繰り返し指導が必要」という考えで、指導していきましょう。

ノートに自分の考えを書けない子供には、まず、友達のことをノートに書き残させ、書くことに慣れさせることが大切です。また、下のノートのように、①②③と順序立てて書かせることで数学的な思考を高めることにつながります。

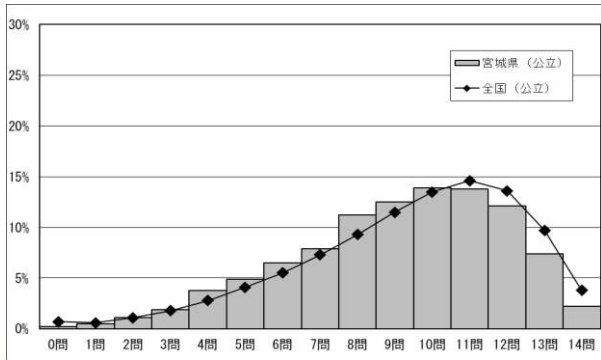
「小学校5年図形の角」で、算数用語「対角線」「三角形の和(三角形の内角の和)」という言葉を使っている



「小学校1年繰り下がり引き算」 説明を式と言葉を関連させながら書いている

小学校国語科の調査結果

(1) 正答数分布状況



(2) 平均正答率の推移

年度	正答率 (%)		
	宮城県 (公立)	全国 (公立)	かい離
令和 5	65%	67%	-2
令和 4	62%	66%	-4

(県平均正答率は仙台市を除いた数値である)

調査結果概要

	宮城県 (公立)	全国 (公立)
対象児童数	9,236人	964,177人
平均正答数	9.1問/14問	9.4問/14問
平均正答率	65%	67%
中央値	9.0問	10.0問
最頻値	10問	11問

領域別の平均正答率

学習指導要領の内容	問題数	正答率 (%)		
		宮城県 (公立)	全国 (公立)	
知識及び技能	言葉の特徴や使い方	5	69.6	71.2
	情報の扱い方	2	61.0	63.4
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	70.1	72.6
	書くこと	1	22.8	26.7
	読むこと	3	68.3	71.2

(3) 問題別集計結果

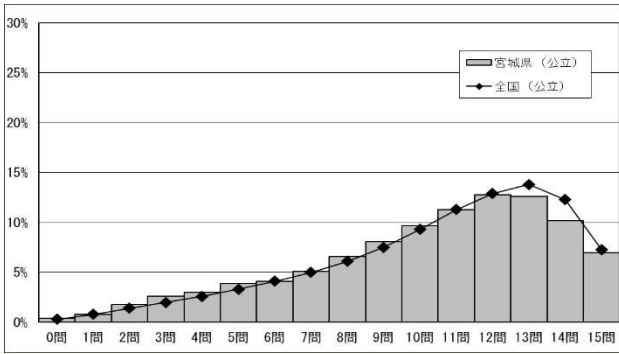
問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域						評価の観点	問題形式	正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の かい離 (①-②)	無解答率の かい離 (③-④)
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等					① 宮城県 (公立)	② 全国 (公立)	③ 宮城県 (公立)	④ 全国 (公立)		
		(1) 言葉の特徴や 使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い 方に関する 事項	(3) 我が国の 言語文化に 関する事項	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと								
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線の関係として適切なものを選択する		5-6ア					○	○	62.5	64.7	1.2	1.8	-2.2	-0.6
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く					5-6エ		○		22.8	26.7	8.7	7.1	-3.9	1.6
1三 (1) ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す (いがい)		5-6エ					○	○	48.7	52.8	6.4	4.8	-4.1	1.6
1三 (1) ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す (きかん)		5-6エ					○	○	71.4	72.6	7.7	6.7	-1.2	1.0
1三 (2) イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する (くらべて)		5-6ウ					○	○	93.9	93.1	0.8	1.0	0.8	-0.2
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する		5-6カ					○	○	79.2	79.8	1.5	2.0	-0.6	-0.5
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する					3-4ウ		○	○	88.2	90.0	0.6	1.2	-1.8	-0.6
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する					5-6ウ		○	○	63.1	67.4	0.8	1.4	-4.3	-0.6
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したのとして適切なものを選択する		5-6イ					○	○	59.5	62.0	0.9	1.6	-2.5	-0.7
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く					5-6オ		○	○	53.4	56.2	8.8	8.5	-2.8	0.3
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する					3-4エ		○	○	70.4	73.6	2.2	3.7	-3.2	-1.5
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する					3-4エ		○	○	71.0	74.0	2.4	4.1	-3.0	-1.7
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く					5-6エ		○	○	68.9	70.2	13.4	14.3	-1.3	-0.9
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する		5-6キ					○	○	54.6	57.6	7.0	9.5	-3.0	-2.5

→ P13

→ P11

中学校国語科の調査結果

(1) 正答数分布状況



(2) 平均正答率の推移

年度	正答率 (%)		
	宮城県 (公立)	全国 (公立)	かい離
令和 5	68%	70%	-2
令和 4	68%	69%	-1

(県平均正答率は仙台市を除いた数値である)

調査結果概要

	宮城県 (公立)	全国 (公立)
対象生徒数	9,263人	892,738人
平均正答数	10.2問/15問	10.5問/15問
平均正答率	68%	70%
中央値	11.0問	11.0問
最頻値	12問	13問

領域別の平均正答率

学習指導要領の内容	問題数	正答率 (%)		
		宮城県 (公立)	全国 (公立)	
知識及び技能	言葉の特徴や使い方	2	68.7	67.5
	情報の扱い方	2	61.3	63.4
	我が国の言語文化	3	72.4	74.7
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	79.9	82.2
	書くこと	2	59.3	63.2
	読むこと	4	61.7	63.7

(3) 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域						評価の観点		問題形式		正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の かい離 (①-②)	無解答率の かい離 (③-④)	
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	無解答率 (%)				
		(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと							① 宮城県 (公立)	② 全国 (公立)			③ 宮城県 (公立)
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したのとして適切なものを選択する				1 ア			○		○			84.9	87.5	0.0	0.1	-2.6	-0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する		1 ア					○		○			63.4	65.1	0.1	0.2	-1.7	-0.1
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したのとして適切なものを選択する				1 エ			○		○			74.7	76.6	0.2	0.2	-1.9	0.0
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く				1 エ			○			○		80.2	82.5	12.7	10.8	-2.3	1.9
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	1 ウ						○		○			89.8	91.1	0.1	0.2	-1.3	-0.1
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したのとして適切なものを選択する						2 エ	○		○			62.3	63.0	0.4	0.4	-0.7	0.0
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する				1 ア			○		○			71.1	74.2	0.2	0.3	-3.1	-0.1
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く			2 エ			2 オ	○	○		○		67.1	67.5	4.4	3.9	-0.4	0.5
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する				1 エ			○		○			50.2	54.3	0.4	0.6	-4.1	-0.2
3二	漢字を書く(おし量って)	2 ウ						○			○		47.6	43.9	11.9	10.7	3.7	1.2
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く		2 ア					○			○		59.1	61.8	2.1	2.1	-2.7	0.0
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く				1 ウ			○			○		68.5	72.1	11.3	10.2	-3.6	1.1
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)			1 ア				○			○		77.9	82.5	3.8	3.6	-4.6	0.2
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す(いと)			2 イ				○			○		72.2	74.1	4.9	4.8	-1.9	0.1
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く				1 エ			○			○		46.5	50.0	23.5	20.7	-3.5	2.8

→ P15

令和5年度調査問題

二 相田さんは、「資料1」と「資料2」を読んで分かったことをメモにまとめています。次の「相田さんのメモ」の「ア」に当てはまる内容として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【相田さんのメモ】

◇持久力を高める運動
たくさんの酸素を取り入れながら続ける
・軽いジョギング
・縄とび(続けてとび)

◇体のやわらかさを高める運動
しゅん間的に大きな力を出す
うで立てふせ

◇体をやわらかさを高める運動
しゅん間的に大きな力を出す
うで立てふせ

◇持久力を高める運動
たくさんの酸素を取り入れながら続ける
・ふっさん運動
うで立てふせ

◇持久力を高める運動
たくさんの酸素を取り入れながら続ける
・ふっさん運動
うで立てふせ

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

運動で健康な体をつくろう!

運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがりフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするといいの?

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休み時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じた運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だとされています。

私たちが日々行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体にたくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋肉の力を高める運動などです。

主に持久力を高める運動の例
軽いジョギング 縄とび(続けてとび) 腹筋運動 肩立てふせ

主に筋力を高める運動の例

相田さんの考え
「資料1」運動について書かれた本の一部

相田さんの学級では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができるようなことを考えてまとめることにしました。次は、「相田さんの考え」と、相田さんが知りたいうことを調べるために選んだ「資料1」、「資料2」です。これらよく読んで、あとの問いに答えましょう。

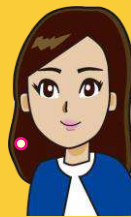
宮城県の解答類型と反応率

正答	63.1%	3と解答
誤答1	6.0%	1と解答
誤答2	7.5%	2と解答
誤答3	22.6%	4と解答
上記以外	0.1%	
無解答	0.8%	

宮城県平均正答率

63.1% 全国との差 -4.3P

全国平均正答率 67.4%



読むことの領域全体では改善の状況が見られますが、必要な情報を見付ける力には、令和4年度から引き続き課題があります。

出題の趣旨

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみるものです。

つまずきチェック

- ・ 文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすること。
- ・ 読む目的に応じて、複数の資料を読みながら、必要な情報を見付けることができること。
- ・ 文章と図表などを結び付けて読むことで、内容についてより深く理解したり解釈したりすること。

知識・技能(2)イ【情報の整理】の指導事項を踏まえ、文章や図表などに使われている語句に着目して読ませたり、読み取ったことを表に整理させたりして、必要な情報を見つけてその関係を考えられるようにすることが大切です。

単元名	和の文化について調べよう
言語活動	和の文化について調べたことを報告する活動。
教材	「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」(東京書籍 新しい国語五)

【C 読むこと】
指導のポイントチェック!
 「主な発問や指示」
 ★授業づくりアドバイス参照



学年	指導事項	主な学習内容	次 時	
			次	時
第一学年及び第二学年	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選ぶ出すこと。	○学習の見通しを持つ。 ・本単元の学習を通して、 <u>身に付ける力</u> について確認する。 ○通読して、筆者の説明の仕方について気付いたことを話し合う。	1	1
			2	2 3 4 5
	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。	○筆者の考えと説明の仕方の工夫を読み取る。 ・文章構成と資料について表に整理し、3つの <u>観点</u> で説明している意図や筆者の考えを読み取る。 ・ <u>文章と図表を関連付けて読み</u> 、資料の効果を考え、説明の仕方の工夫について話し合う。	6	7 8 9
			7	6 7 8 9
			8	6 7 8 9
			9	6 7 8 9
第三学年及び第四学年	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。	○パンフレットを作成する。 ・ <u>伝えたいこととの関連</u> を考えながら、パンフレットに掲載する情報や資料を組み合わせ、 <u>報告の文章</u> を書く。 ○作成したパンフレットを読み合い、伝えたいことに必要な情報を見付け、説明の仕方を工夫しているか話し合う。	3	10
			3	10
第五学年及び第六学年	ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。	○単元の振り返り ・和の文化について、観点を考えたり、資料を効果的に活用したりして報告することで、必要な情報を見付ける力が身に付いたかを振り返る。 ・学習の感想を伝え合う。	3	10

- 導入における身に付ける力の確認
(教師が作成したパンフレットを見せながら)この単元では、和の文化をパンフレットにまとめて報告する学習を通して、必要な情報を見付ける力を付けます。
- 具体的な手立てに沿った読み取り
文章の構成(序論、本論、結論)と説明の観点を、表に整理し、筆者の考えを読み取りましょう。
- 資料の内容やキャプション等に注目して、説明の文章に関連した語句を探し、その資料の効果を考えましょう。★(1)
- 読み取りを生かした情報の収集
読み取ったことを参考にしてグループで調べることを決め、調べる観点や調べる方法を考えましょう。
- 観点に沿って必要な情報を見付ける時は、前時までに学習した、関連した語句や内容に着目して見付けましょう。★(2)
- これまで学習したことの活用
文章構成や取り上げる情報と資料の組み合わせを考えて、表に整理しましょう。★(3)
- 表に整理した情報や資料について、読み手が分かりやすいように報告の文章をまとめ、パンフレットを作成しましょう。
- 観点を示した振り返りと共有
単元を通して学んだことや、今後どのような場面で必要な情報を見付ける力を生かすことができるかなどを文章でまとめ、発表しましょう。

C 読むこと 【精査・解釈】

授業づくり アドバイス



★(1)語句と語句の関係を表すには…
 図示による情報の整理をさせる!
 (整理の仕方を一斉に指導することも大切です)
 ・複数の語句を丸や四角で囲む
 ・語句と語句を線でつなぐ

必要な情報を見つけて、その関係を考えることができるように、読むための手立てを学ばせていきましょう!

※カッコ数字は上段のポイントチェックと対応しています。

★(2)必要な情報を見付けるには…
 こんな語句に着目させる!
 ・繰り返し使われている語句
 ・似たような意味をもつ語句

★(3)情報と情報の関係付けの仕方は…
 こんな方法で考えさせる!
 ・複雑な事柄を分解する
 ・多様な内容や別々の要素などをまとめる
 ・類似点から類推する
 ・一定のきまりを基に順序立てて系統化する

「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」

B書くこと E【考えの形成、記述】

令和5年度調査問題

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、いかに雑草が生えてきて、農家の田んぼとくらべてみました。つきかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

このようなことに取り組み、9月の下旬にお米をしゅうかくすることができました。

- 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と【カード④】のそれぞれから分かることを書くこと。
- 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
- 六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の□□に学校の米作りの問題点とその解決方法について書くこととしています。あなたが川村さんなら、□□に入る内容をどのように書きますか。おどの条件に合致させて書きましょう。

- 【カード①】
6月24日
・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいきようするのではないかと心配だ。
- 【カード②】
6月30日
・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
・調査さかん 7月1日～15日
- 【カード③】
7月19日
・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。
- 【カード④】
7月20日
【農家の石山さんのお話】
・雑草の栄養にとられると、米のしゅうかくが減る。
・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。
- 【カード⑤】
7月21日
【学校でできる解決方法】
・雑草取りの回数を増やす。
・雑草取りの人数を増やす。

「川村さんの考え」
雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。



① 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書くこととしています。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ【カード①】から【カード⑤】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

宮城県の解答類型と反応率

正答	22.8%	条件①a、bの両方と、条件②、③を満たしているもの
誤答1	17.7%	条件①a、②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの
誤答2	19.0%	条件①b、②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの
上記以外	31.8%	
無解答	8.7%	

条件① 学校の米作りの問題点について、以下のことを書いている。
a【川村さんの文章】のグラフから分かること
b【カード④】から分かること
条件② 問題点の解決方法について、【カード⑤】をもとにして書いている。
条件③ 60字以上、100字以内で書いている。

宮城県平均正答率

22.8% 全国との差 -3.9P

全国平均正答率26.7%

出題の趣旨

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみるものです。

つまずきチェック

- ・ 示された条件に合うように考えをまとめて書くこと。
- ・ グラフを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

書くことの領域全体では改善の状況が見られます。
【考えの形成、記述】に関する問題は、初めての出題です。



「考えの形成、記述」に関する指導事項の系統を踏まえ、目的や意図を明確にして書かせます。自分の考えを支えたり裏付けたりする理由や事例、客観的データ等を挙げながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫させることが大切です。

単元名 環境問題について報告しよう (東京書籍 新しい国語五)
言語活動 環境問題について、資料を活用して報告する文章を書く活動。

【B 書くこと】
指導のポイントチェック!
「主な発問や指示」
★授業づくりアドバイス参照



	学年	指導事項	次	時	主な学習活動
			1	1	
〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと 〔考えの形成、記述〕	第一学年及び第二学年	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	1	1	○学習の見通しを持つ。 ・本単元の学習を通して <u>身に付ける力</u> について確認する。 ・二つの報告書(図表やグラフを用いたもの、用いていないもの)を比べ、 <u>資料を活用するよさ</u> について考える。 ・学習計画表で学習計画を立てる。
	第三学年及び第四学年	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	2	2 3 4 5 6	○テーマを決めて調べる。 ・調査計画(テーマ、知りたいこと)を立てる。 ・本やインターネットなどで調べ、資料や情報を集める。 ・情報の出所(書名、資料名等)を記録し、カードに整理する。 ○目的に応じて必要な資料や情報を選び出す。 ・ <u>キーワードに印を付け、必要なカードと不要なカードを分類する。</u> ・ <u>選んだカードを関係付けて、伝えたいことを明確にする。</u> ○カードを基に文章の構成を考えて、調べたことを報告する文章を書く。 ・ <u>どこでどの資料を使うとよいか、効果的な使い方を考える。</u> ・事実と感想、意見を区別して書く。 ○評価を伝え合い、文章を手直しする。
	第五学年及び第六学年	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	3	7	○単元の学習を振り返る。 ・資料を活用して文章を書く時に気付いた点を振り返る。 ・単元での学習がどんな場面に役立つかを考え、これからの学習や生活に生かそうという意識を高める。

○導入における身に付ける力の確認
この単元では、環境問題について詳しく知りたいと思ったことを調べ、報告書にまとめる学習を通して、資料を活用して報告する力を付けます。
(教師が作成したモデルとなる文章を提示し)二つの報告書を書きました。どのような違いがありますか。 ★(1)

○目的を明確にした調べ活動
自然や環境の問題について、詳しく知りたいことは何ですか。テーマを決めて知りたいことを書き出しましょう。 ★(2)

○資料を活用して書く活動
カードの中から、書きたいことに関連する言葉(キーワード)を探して印を付け、必要なカードを選び出しましょう。
選んだカードの中から、関係のあるもの同士を矢印でつないだり、カードを並べ替えたり、関係性を書き込んだりして整理しましょう。 ★(3)
調べて分かったことや、そこから考えたことを分かりやすく伝えるために、資料を活用しながら文章を書きましょう。
テーマについて、資料を活用して分かりやすく伝えることができているか、友達とアドバイスし合いながら、自分の文章を見直したり書き直したりしましょう。

○観点を示した振り返りと共有
単元を通して学んだことは、どんなことですか。それは、今後どんな時に生かすことができそうですか。

授業づくり アドバイス

※カッコ数字は上段のポイントチェックと対応しています。

★(1)単元の導入…

資料(図表やグラフなど)を用いるよさを実感させる!

- ・伝えたいことの説得力が増す
- ・文字だけより読みやすい
- ・言葉だけでは説明しにくいことも表せる
- ・増減や割合などが見てすぐ分かる

★(2)目的を明確にした調べ活動…

観点を示して調べることを焦点化させる!

- ・何について、どんなことが知りたいか(○○とは何か、○○でどんなことが問題か、○○はなぜ起こるのか、どうすれば○○を防げるのか)
- ※インターネットの情報だけに頼ることのないよう、本や新聞記事、辞書、事典、図鑑等の資料も準備しましょう!

★(3)資料を活用して書く活動…情報や資料を整理し、伝えたいことを明確にさせる!

- ・必要な情報に印を付ける
- ・情報と情報を矢印でつなぐ
- ・表を用いてまとめる
- ※情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにすると効果的です!
- ※ICTの活用で、情報を整理しやすくしましょう!

必要な情報を整理し、資料を活用して考えを書くための手立てを学ばせましょう!

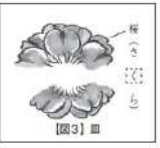
「自分の考えが伝わる文章になるように、
根拠を明確にして書くこと」


B 書くこと ウ【考えの形成、記述】

令和5年度調査問題

四 山田さんは、「■「判じ絵」の解説の面白さ」に【図3】としてもう一つ具体例を示して、解読の仕方を説明しようとしています。あなたなら、どのように書きますか。次の〈候補〉のA、Bから一つ選び(どちらの〈候補〉を選んででもかまいません。)
【図3】は、「」に続けて、【図2】の説明の仕方を参考にして書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈候補〉

A 

B 

「判じ絵」について 山田 光一


1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。


2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものが異なるため、解読するには、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」ことが必要になる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。
【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。





【図3】は、

③ 山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。
【下書きの一部】

宮城県の解答類型と反応率

正答 68.5% 条件①、②、③を満たして解答しているもの

誤答1 13.7% 条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの
誤答2 0.0% 条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの
上記以外 6.4%
無解答 11.3%

- 条件① AとBのいずれか一つの〈候補〉を選んで、その記号を塗り潰している。
条件② 「【図3】は、」に適切に続くように書いている。
条件③ 選んだ〈候補〉について、解読の仕方を書いている。

宮城県平均正答率

68.5% 全国との差
—3.6P

全国平均正答率72.1%

出題の趣旨

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみるものです。

つまずきチェック

・ 図に応じた解読の仕方を、根拠として文章の中に記述すること。



「根拠を明確にして書くこと」については、改善の状況が見られますが、平均正答率は全国平均を下回っています。

系統性を踏まえた指導のポイント(中・書くこと)

複数の事例の中からどの事例を自分の考えを支える根拠とするのかを検討したり、取り上げる根拠をどのように文章中に記述するかを吟味したりする学習活動を充実させることが重要です。

単元名 根拠を明確にした意見文を書こう
言語活動 新聞記事に合う写真を選ぶための意見文を書く活動。
教材 「根拠を明確にして書こう」(東京書籍 新しい国語1)

【B 書くこと】

指導のポイントチェック!

★授業づくりちょっとアドバイス参照



学年	指導事項	次	時	主な学習内容
		1	1	1
第一学年	ウ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	2	2 3	○意見文を書く手順について学ぶ。 ・新聞記事から二つの写真と結び付けて得られる情報を書き出し、それらを二つの写真の長所と短所に分類する。 ・自分の立場(写真)と取り上げる根拠を決め、根拠が適切かどうかをペア(グループ)で検討する。 ★(2) ・意見文の完成例を分析する。 ★(3) ・前半のまとめとして、自分の考えが伝わる文章を書くための留意点を考える。 ★(4)
		4 5	4 5	○新たな新聞記事、写真の問題に取り組み、意見文を書く。 ・新聞記事から二つの写真と結び付けて得られる情報を書き出し、それらを二つの写真の長所と短所に分類する。 ・自分の立場(写真)と取り上げる根拠を決める。 ・立場を明確にした意見文を書く。 ・観点に従い、読み手の立場に立って、推敲する。 ★(5) ・書いたものをグループで読み合い、交流する。
第二学年	ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。			
第三学年	ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。			
		3	6	○単元の振り返り ・前時の交流や教師からの助言を踏まえ、意見文を書き直す。 ・学習を振り返る。

★(1) 導入で、重要語句「根拠」の理解を深めさせましょう
・学習用語の理解不足によりつまづきを感じる生徒もいます。レディネスをチェックし、必要に応じて既習事項や実生活と関連させながら押さえさせましょう。

★(2) 根拠を検討させましょう
・根拠を明確にするためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認させることが必要です。

★(3) 根拠をどのように文章中に記述するかを考えさせましょう
・説得力のある文章を書くためには、根拠を文章の中でどのように記述するとよいかを押さえさせる必要があります。
例) 根拠を複数示す
例) 専門的な立場からの知見を引用する

★(4) 単元前半の振り返りをさせ、後半の活動を充実させましょう
・単元前半で「習得」したことを、単元後半で「活用」することにつなげるための活動です。「習得」から「活用」という単元デザインにすることで、指導内容の確かな定着を目指します。

★(5) 指導事項B1エ「推敲」も重要課題です
・同調査において、「推敲」の指導事項に関わる問題の県平均正答率は、全国平均正答率より4.1ポイント下回っています。



授業づくり アドバイス (吹き出しは発問・指示例)

※カッコ数字は上段のポイントチェックと対応しています。

「どうしても欲しいものがあるとき、お家の人にどのようにお願いしますか?」「その中に根拠はありますか?」

★(1)「根拠」の理解
・身近な話題から、「根拠」の有無や質で説得力が変わると実感できる事例について取り上げる。

「自分の考えを支える根拠として適切か、説得力を高める根拠は他にないか、ペア(グループ)で検討しましょう。」

★(2)「根拠」の検討
・学習形態を工夫し、客観的に検討する場を設定する。

「二つの文章を比較して、より説得力が高い方を選び、そう考える理由も明確に示しましょう。」

★(3)記述の仕方を吟味
・良い例と改善が必要な例を比較させることで、生徒の気づきを生かしながら記述の仕方のポイントを捉えさせる。

★(4)単元前半の「振り返り」
・振り返りの視点を示し、生徒に自分の言葉で記述させる。全体で共有し、まとめ直したものを単元後半の学習時に常掲することで、ポイントを意識させて取り組ませる。

★(5)「推敲」
・自分の考えが伝わる文章にするための観点を示し、根拠や書き方について検討させる。

「ここまで学習してきたことを言葉にしてまとめます。次に示す観点に従って大切なことを箇条書きでまとめましょう。」

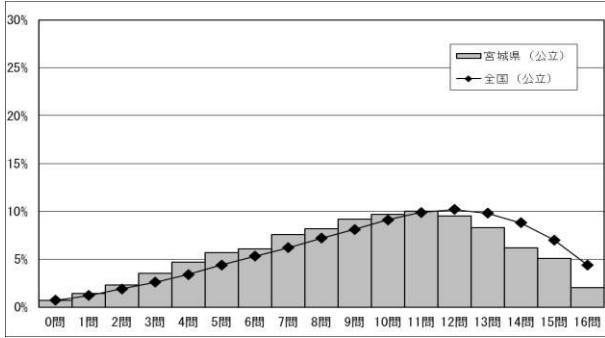
観点
①伝えたい自分の考えを明らかにするために
②考えを支える根拠となる具体例を選ぶために
③文章の中に自分の考えと根拠を書くために

「読み手に伝わる文章にするために次の観点で見直しましょう。」

観点 目的、相手、文字、表記、長さ、語順等

小学校算数科の調査結果

(1) 正答数分布状況



(県平均正答率は仙台市を除いた数値である)

調査結果概要

	宮城県 (公立)	全国 (公立)
対象児童数	9,236人	964,350人
平均正答数	9.3問/16問	10.0問/16問
平均正答率	58%	63%
中央値	10.0問	11.0問
最頻値	11問	12問

(2) 平均正答率の推移

年度	正答率 (%)		かい離
	宮城県 (公立)	全国 (公立)	
令和5	58%	63%	-5
令和4	58%	63%	-5

領域別の平均正答率

学習指導要領の領域	問題数	正答率 (%)	
		宮城県 (公立)	全国 (公立)
数と計算	6	62.3	67.3
図形	4	43.4	48.2
測定	0		
変化と関係	4	66.4	70.9
データの活用	3	62.1	65.5

(3) 問題別集計結果

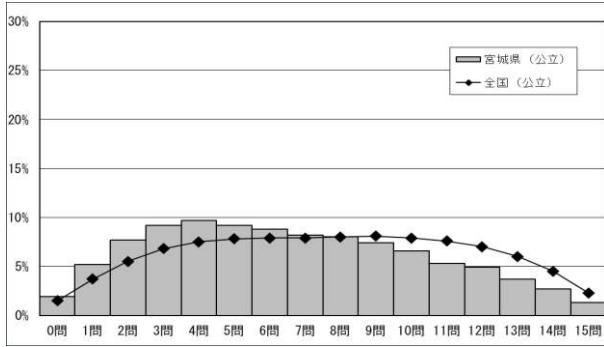
問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の かい離 (①-②)	無解答率の かい離 (③-④)
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	① 宮城県 (公立)	② 全国 (公立)	③ 宮城県 (公立)	④ 全国 (公立)		
1 (1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める				4 (1) ア(ア)		○				○	92.1	93.5	1.0	0.8	-1.4	0.2	
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く				5 (1) イ(ア)		○			○	85.7	88.5	1.2	1.0	-2.8	0.2		
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く				5 (1) イ(ア) 5 (2) イ(ア)		○			○	48.2	55.5	4.5	3.4	-7.3	1.1		
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算する	3 (3) ア(ア)					○			○	78.2	80.8	1.2	1.2	-2.6	0.0		
2 (1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ		4 (1) ア(イ)				○			○	56.9	59.8	0.3	0.7	-2.9	-0.4		
2 (2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く		2 (1) ア(イ) 4 (1) ア(ア)				○			○	85.1	87.2	3.2	2.9	-2.1	0.3		
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く		3 (1) ア(ア) 5 (1) ア(イ)				○			○	18.2	24.9	4.0	3.7	-6.7	0.3		
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く		5 (3) イ(ア)				○			○	13.3	20.8	4.3	4.0	-7.5	0.3		
3 (1)	2種類の辞書を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	4 (6) イ(ア)					○			○	64.1	70.3	1.3	1.4	-6.2	-0.1		
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを欄に入れることができるかどうかを判断する	3 (5) ア(イ) 4 (4) ア(エ) イ(ア)					○			○	48.5	56.7	4.4	4.0	-8.2	0.4		
3 (3)	(151+49)×3と151×3+49×3を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	4 (6) ア(ア) 4 (7) ア(ア)					○			○	65.9	72.4	2.3	2.5	-6.5	-0.2		
3 (4)	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	3 (4) イ(ア) 4 (3) ア(ア)					○			○	43.2	47.6	3.9	3.9	-4.4	0.0		
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ				5 (3) ア(イ)		○			○	39.7	46.0	1.9	2.4	-6.3	-0.5		
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	4 (2) ア(イ)			3 (1) ア(ア)		○			○	73.7	75.7	4.6	4.3	-2.0	0.3		
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く				3 (1) ア(イ) イ(ア)		○			○	51.8	56.2	16.1	13.8	-4.4	2.3		
4 (4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ				4 (1) ア(ア)		○			○	60.6	64.6	4.0	4.9	-4.0	-0.9		

→P19

→P21

中学校数学科の調査結果

(1) 正答数分布状況



(2) 平均正答率の推移

年度	正答率 (%)		
	宮城県 (公立)	全国 (公立)	かい離
令和 5	44%	51%	-7
令和 4	45%	51%	-6

(県平均正答率は仙台市を除いた数値である)

調査結果概要

	宮城県 (公立)	全国 (公立)
対象生徒数	9,262人	893,114人
平均正答数	6.6問/15問	7.6問/15問
平均正答率	44%	51%
中央値	6.0問	8.0問
最頻値	4問	9問

領域別の平均正答率

学習指導要領の領域	問題数	正答率 (%)	
		宮城県 (公立)	全国 (公立)
数と式	5	56.4	63.0
図形	3	27.6	33.2
関数	4	45.0	51.2
データの活用	3	39.5	48.5

(3) 問題別集計結果

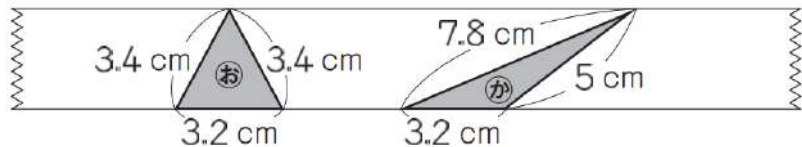
問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の かい離 (①-②)	無解答率の かい離 (③-④)
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	①宮城県 (公立)	②全国 (公立)	③宮城県 (公立)	④全国 (公立)		
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	1(1) ア(7)				○			○			36.6	46.1	0.2	0.1	-9.5	0.1
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	2(1) ア(7)				○			○			74.6	80.5	6.1	4.0	-5.9	2.1
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ		1(2) ア(7)			○			○			24.7	30.4	0.7	0.8	-5.7	-0.1
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ			1(1) ア(4)		○			○			36.6	42.8	0.4	0.5	-6.2	-0.1
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める				1(1) ア(7)	○			○			36.1	46.1	14.8	11.0	-10.0	3.8
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかけた数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	1(1) ア(9)				○			○			87.3	88.9	3.0	2.4	-1.6	0.6
6(2)	はじめの数にかけた数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	2(1) イ(4)				○			○			49.5	58.8	12.9	10.6	-9.3	2.3
6(3)	はじめの数にかけた数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	2(1) イ(4)				○			○			33.7	40.9	30.0	24.7	-7.2	5.3
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める				2(1) ア(7)	○			○			54.8	65.7	7.5	5.6	-10.9	1.9
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する				2(1) イ(7)	○			○			27.7	33.6	28.6	22.8	-5.9	5.8
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く				2(1) ア(7) イ(7)	○			○			51.1	57.5	10.5	8.6	-6.4	1.9
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ				2(1) ア(4)	○			○			56.0	61.7	1.0	1.1	-5.7	-0.1
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する				2(1) イ(4)	○			○			36.2	42.8	15.1	13.2	-6.6	1.9
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する				2(1) イ(7)	○			○			26.4	32.1	27.6	24.7	-5.7	2.9
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く				2(2) ア(4) イ(7)	○			○			31.6	37.0	16.6	14.2	-5.4	2.4

P23

「図形の性質をもとに面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて説明すること」

令和5年度調査問題

2 (4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊟と㊦の2つの三角形をつくります。



上の㊟と㊦の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊟の面積のほうが大きい。
- 2 ㊦の面積のほうが大きい。
- 3 ㊟と㊦の面積は等しい。
- 4 ㊟と㊦の面積は、このままでは比べることができない。

宮城県平均正答率

13.3%

全国との差
-7.5P

全国平均正答率 20.8%

宮城県の解答類型と反応率

正答 3を選び、 底辺の長さが等しいこと を表す言葉や数 (①) 高さが等しいことを表す 言葉 (②) の全てを書いているもの	◇3と解答	30.5%
	①、②の全てを書いているもの	13.3%
	①を書いているもの	3.0%
	②を書いているもの	5.9%
	それ以外または無解答	8.3%
	◇4と解答	27.2%
	高さについて具体的な長さが示されていないことを書いているもの	16.2%
◇2と解答	26.3%	
◇1と解答	7.2%	

本県の「面積は等しい」ことが分かっている反応率は、全国と比較して6.8ポイント低くなっています。また、7.8 cmや5 cmの辺が3.4 cmよりも長いことから、「㊦の面積の方が大きい」と解答した反応率が4.3ポイント高くなっています。このことから、三角形の底辺に対する高さを正しく理解できていないことがうかがえます。また、「その番号を選んだわけ」を記入していない無解答率の高さから、理由などを自分のことばで表現することを苦手としていることがうかがえます。

問題解説

この問題は、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。2つの三角形の面積の大きさを判断するために、平行な2つの直線の幅はどこでも等しいことに着目し、示された三角形の底辺と高さを適切に捉えることが必要です。基本図形の面積の公式の理解を深め、活用できるようにすることが大切です。

つまずきチェック

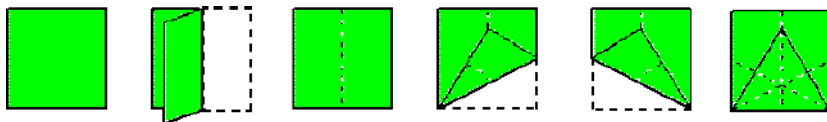
- ・底辺と高さの関係を正しく理解すること。(小5)
- ・折る・開く・重ねるなどの操作活動を通して、図形の特徴を実感的に理解すること。(数学的活動)
- ・公式が成り立つ理由などについて、自分の考えを説明したり記述したりすること。(数学的活動)

「図形」領域では、実物进行操作したりタブレットなどの情報端末でシミュレーションしたりして、図形に対する感覚を豊かにする指導を工夫しましょう。また、性質の一般性を理解することも大切です。平行線と面積など、図形の基礎となることからは、学年や領域の枠を超えて繰り返し出てきます。教師はそれらの系統を踏まえて指導することが大切です。

「図形」に関連する主な学習の系統

小学校第1学年	形の特徴、形作り・分解
小学校第2学年	三角形、四角形、正方形、長方形、直角三角形、箱の形
小学校第3学年	二等辺三角形、 正三角形 円、球
小学校第4学年	平行四辺形、ひし形、台形 角の大きさ 正方形、長方形の求積 立方体、直方体
小学校第5学年	多角形、正多角形、合同な図形 三角形 、平行四辺形、ひし形、台形の求積 立方体、直方体の求積 角柱、円柱
小学校第6学年	対称な図形、縮図や拡大図 円の求積 角柱、円柱の求積

【小学校第3学年】**正三角形**
折り紙で正三角形をつくりましょう。



実際に折って切ってみよう！



正三角形ができましたね！
どうしてこの方法で正三角形が作れるのか、ペアで理由を伝え合ってみよう！



折り紙は、正方形だよ。

うん。半分に折って、開いたから…。



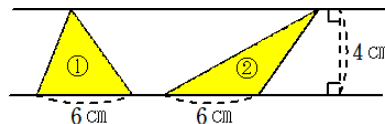
折るまえと折ったあとで、重なる辺に注目してみると…。

指導のポイント

実際に折り紙を折ることで、重なる辺が等しいことを実感させます。正三角形になる理由を、意見交流しながら、自分の言葉で表現させることを大切にしましょう。

【小学校第5学年】**三角形の求積**

右の①②の三角形の面積が等しい理由を説明しましょう。



指導のポイント

問い返して、根拠を明らかにして説明させます。
ペア→全体→ペア……と繰り返すことなども有効です。高さを書き込ませるなど、児童の定着度を確認しながら進めましょう。

なぜ面積は等しいのでしょうか？



どこが底辺ですか？

底辺と高さが等しいからだと思います。

6 cmの辺です！



ええっと…。



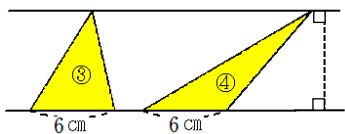
もう一度ペアで、理由を明らかにして説明し合ってみましょう。

底辺は6 cmで等しくて、高さは直線と直線の幅だから4 cmで等しくなります。だから面積も12 cm²で等しいです！



高さを書いたよ！

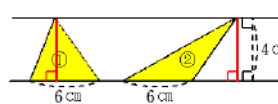
すばらしい！では、③④の面積は等しいでしょうか。



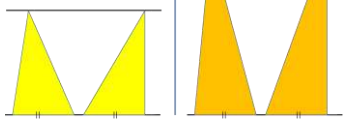
高さが何cmか書いてないから面積を求めることができない…。



【ノート】



【タブレット】



そうか！
平行な線の幅を変えても、比べたい2つの三角形それぞれの高さは同じ長さだから、2つの三角形の面積は等しいだね。

指導のポイント

情報端末でシミュレーションすることで、平行線の幅によらず、比べたい2つの三角形の高さが常に等しいことを捉えさせます。児童に実感を伴った理解を促すことを大切にしましょう。

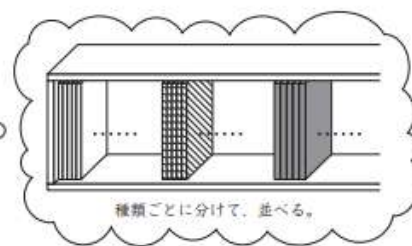
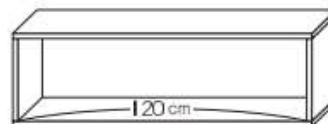
「日常生活場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断すること」

令和5年度調査問題

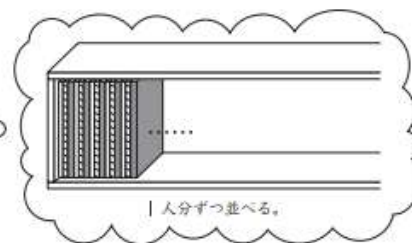
3 (2)

けんたさんの学級では、1人が3種類のファイルを1冊ずつ使うことにしました。それぞれのファイルの厚さは1.4 cm、1.6 cm、2 cmです。けんたさんの学級の人数は23人です。

下のような、はば120 cmのたなに、ファイルを全部並べて入れることができるかどうかを考えています。



けんた



あやね

3種類のファイル23人分を全部並べた長さは、何cmですか。全部並べた長さの求め方を、式や言葉を使って書きましょう。

また、答えも書きましょう。

さらに、たなにファイルを全部並べて入れることができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 入れることができる。
- 2 入れることができない。

宮城県の解答類型と反応率

宮城県平均正答率

正答	115 cmと答え、1を選んだもの (求め方の例) 3種類のファイルの厚さを足して、23倍して、23人分を並べた長さを求める。	48.5%
誤答	言葉や式での説明が不十分なもの。	7.7%
誤答	言葉や式での説明はできているが、小数の加法や乗法を正しく用いて115と求められなかったもの。	12.0%
上記以外の解答		27.5%
無解答		4.4%

48.5%

全国との差
-8.2P

全国平均正答率 56.7%

本県の児童の解答には、言葉や式での説明が不十分であることに加え、言葉や式での説明はできているが実際の計算過程で小数の加法や乗法を正しく用いることができなかったものが見られました。また、誤答や無解答率の高さから、問題の中にある情報を適切に読み取ることができないことや問われている内容を理解できないことがうかがえます。

問題解説

この問題は、数量の関係に着目して、問題場面を解釈し数学的に表現・処理したり数量の求め方を数学的に表現したりすることを、言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

日常生活の場面を、式に表したり式を場面と関連付けて読み取ったりすることを通して、問題の解決に式を用いることができるようにすることが大切です。

つまずきチェック

- ・小数の意味とその加法・乗法の計算の仕方を理解すること。(小3・4)
- ・問題場面を解釈したり、問われていることを正確に理解したりすること。(数学的活動)
- ・必要な情報を取り出すことや自分の考えに理由を付けて説明すること。(数学的活動)

すべての領域において、自分の考えを発表したり交流したりする学習が大切です。児童同士での学び合いや教師からの問い返しを通して、図や式で表し説明させること、表やグラフ相互の関連を図る機会を設けることなど、授業の様々な場面で児童の学びを深めるよう支援しましょう。

【小学校第4学年】（数と計算）数や式の関係に注目し、式の意味を説明する

1人に、おにぎりを1つ、スポーツドリンクを1本買います。おにぎりは1つ130円、スポーツドリンクは1本160円です。7人分買うと、代金はいくらですか？ 代金を求める式をつくりましょう。

$(130+160) \times 7$ です。

なぜその式になりましたか？ 説明できる人はいませんか？

$(130+160)$ の部分は、1人分の代金で、それが7人分なので7倍しました。

私は $130 \times 7 + 160 \times 7$ という式をつくりました。こちらの式はどうですか？

なぜその式になりましたか？ 先ほどの式と違う部分はどこですか？

その式は、1人分の代金を求めてから7倍するのではなく、おにぎり7つ分とスポーツドリンク7本分の代金をそれぞれ求めてから、最後に足している式だと思います。

それぞれの式で代金を求めることができそうですね。では、式が違って同じ答えになるか計算して確かめましょう。

同じ答えになりました。
2つの式を比べてみたら、計算のきまりを使っていることに気がきました。

指導のポイント

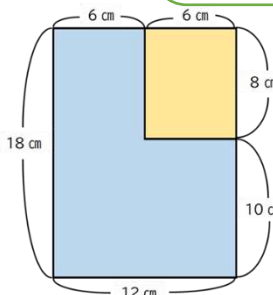
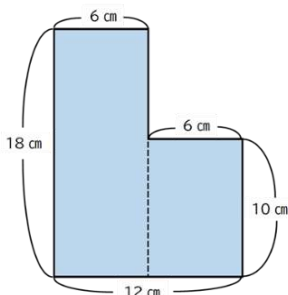
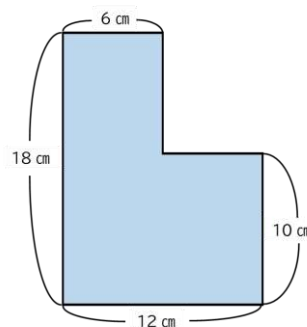
式の正誤を確認するだけでなく、どのように立式したかを児童に説明させましょう。また、他の方法で考えることができないか、教師からの問い返しをとおして児童の学びを深めましょう。

【小学校第4学年】（図形）多様な考えについて、式をもとに説明する

右のような形の面積を求める式は、どうなりますか？

図形を直線で2つに分けて、2つの長方形の面積の和を求めればよいと考えました。式は、 $18 \times 6 + 10 \times 6$ です。

私は $18 \times 12 - 8 \times 6$ と考えました。右上の部分を足して1つの長方形の面積を求めてから、足した部分の長方形の面積を引いて求めました。



このような式をつくった人がいます。
 $(18+10) \times 6$
どのように考えてこの式をつくったのか、理由を考えてみましょう。また、図に書き込んだり動かしたりして友達に説明しましょう。

指導のポイント

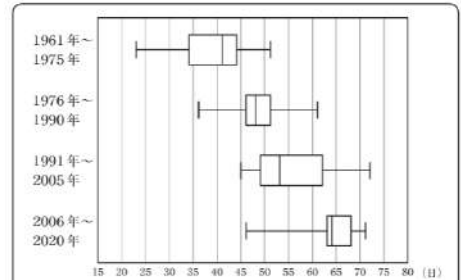
多様な考えを取り上げるとともに、考え方を児童が説明し合いながら全体で共有しましょう。また、式を与えてどのように考えたのかを振り返らせることも大切です。図に書き込み説明する際は、1人1台端末も有効です。

「データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること」

※ 批判的に考察することとは、物事を単に否定することではなく、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだすことである。(中学校学習指導要領解説数学編 P91 参照)

令和5年度調査問題

7 (問題文は簡略化したもの)
イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日といいます。右の黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

- (1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。
(2) 2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

宮城県平均正答率

(1)	54.8%	全国との差 -10.9P	(2)	27.7%	全国との差 -5.9P
	全国平均正答率 65.7%			全国平均正答率 33.6%	

宮城県の解答類型と反応率

(1) 正答	54.8%	10	誤答3	1.2%	23から51 と解答しているもの
誤答1	2.6%	34から44 と解答しているもの	上記以外	21.8%	
誤答2	12.2%	28 と解答しているもの	無解答	7.5%	
(2)					
(a)	1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にあること。	正答1	9.9%	(a)、(d)について記述しているもの	
		正答2	9.4%	(a)のみを記述しているもの	
(b)	1991年～2005年の第1四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きく、1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第3四分位数の方が大きいこと。	正答3	3.4%	(b)、(d)について記述しているもの	
		正答4	3.1%	(b)のみを記述しているもの	
(c)	1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいこと。	正答5	0.9%	(c)、(d)のみを記述しているもの	
		正答6	1.0%	(c)のみを記述しているもの	
(d)	2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあること。	上記以外	43.7%		
		無解答	28.6%		

問題解説

(1) は、四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題です。(2) は、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題です。

日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することが求められる場合があります。その際、判断の理由を数学的に説明することが大切です。

つまずきチェック

- 目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知ること。(小6)
- ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解すること。(中1)
- コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理すること。(中1)

令和5年度公立高等学校入学者選抜
学力検査との関連

データの活用領域「箱ひげ図から複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取る問題」に課題が見られます。

(令和5年度公立高等学校入学者選抜
学力検査の分析結果 P18 参照)

「データの活用」の領域では、目的に応じてデータを処理し、データの傾向を捉え説明するという一連の活動の流れを経験させていきます。その際、当該学年の内容だけではなく、既習内容を確認することが大切です。

「データの活用」に関連する主な学習の系統

小学校第5学年 円グラフや帯グラフ ・円グラフや帯グラフの特徴と使い方 ・統計的な問題解決の方法 測定値の平均 ・平均の意味
小学校第6学年 データの考察 ・代表値の意味や求め方 ・度数分布を表す表やグラフの特徴と使い方 ・目的に応じた統計的な問題解決の方法
中学校第1学年 データの分布の傾向 ・ヒストグラムや相対度数の必要性和意味
中学校第2学年 データの分布の比較 ・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味 ・箱ひげ図で表すこと
中学校第3学年 標本調査 ・標本調査の必要性和意味 ・標本を取り出し整理すること

「全国体力テストの結果」を分析する

第2学年の授業例

小中学生の運動能力などを調査する、全国体力テストの結果が公表されました。調査は、握力や50m走、立ち幅とび等の8種目が対象です。ここでは、立ち幅とびの結果を分析することにしました。

【小学校の既習内容】平均・度数分布表の活用

下のデータは、A中学校の男子25人と、B中学校の男子15人の立ち幅とびの記録です。

A中学校 (単位はcm)										
200	198	207	206	185	206	206	202	194	201	
198	189	205	202	192	187	193	201	193	185	
200	201	193	185	192						
B中学校 (単位はcm)										
187	205	201	195	200	197	187	193	193	186	
199	191	204	199	209						



A中学校とB中学校ではデータの数が違うから、平均値で比べてみようかな。平均値は、合計を求めて、それを個数で等分すると考えれば、計算で求めることができるよね。



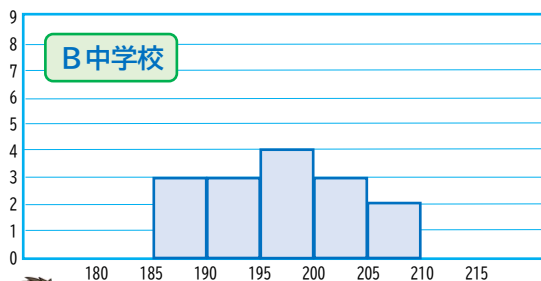
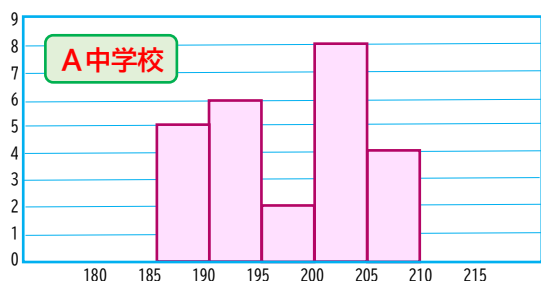
A中学校のデータの合計は4921だったよ。25人のデータだから $4921 \div 25 = 196.84$ 平均値は、196.84 cm だよ。同様にB中学校の平均値を求めると、 $2943 \div 15 = 196.20$ 平均値は、196.20 cm だよ。



全国平均値は196.89 cmでした。2つの学校の平均値は、ほぼ同じでしたが、どちらも下回っていますね。では、全体の散らばりの様子が見やすいように、跳んだ距離を5cmずつに区切って、度数分布表に整理してみましょう。

【中学校第1学年の既習内容】ヒストグラムの活用

立ち幅とびのデータをヒストグラムで表してみましょう。



ヒストグラムで表したら、分布の形や最頻値が分かりやすくなったね。

立ち幅とび (cm)	A中学校 度数(人)	B中学校 度数(人)
185 以上 190 未満	5	3
190 ~ 195	6	3
195 ~ 200	2	4
200 ~ 205	8	3
205 ~ 210	4	2
計	25	15



「正」の字を書いて数えてから表の数を書いてもいいよね。



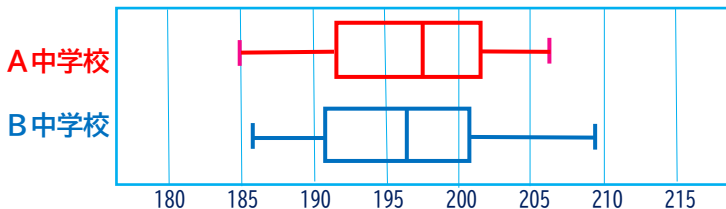
A中学校は平均値が含まれる階級の人数が一番少なかったよ。B中学校は、度数の差が小さかったね。



平均値だけでは分からなかった特徴を調べられたね。では、ヒストグラムと箱ひげ図で表すと、どうなるかな。

【中学校第2学年の学習内容】箱ひげ図の活用

立ち幅とびのデータを箱ひげ図で表してみましょう。



箱ひげ図で表したら、2つのデータの分布を一度に比較することができたね。中央値を基準にした散らばりを比べやすくなったよ。



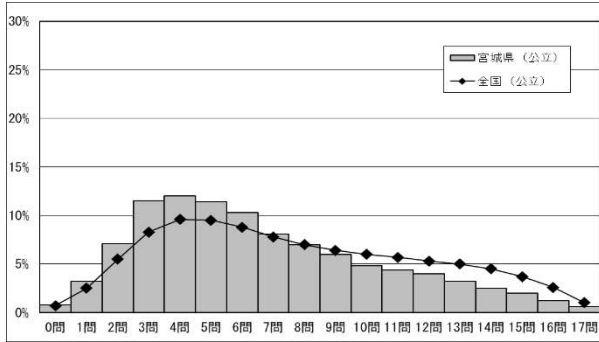
ヒストグラムからは、度数は異なりますが、どちらのデータも185cm~210cmの範囲に散らばっていることが分かります。一方、箱ひげ図からは、2つのデータを並べることで、B中学校よりもA中学校の箱が右に寄っていることが分かります。データを分析する際は、複数の観点で比較したり、多様な統計的表現を用いたりするなど、多面的に吟味することが大切です。

【指導のポイント】

日常生活における事象（データ）を、様々な方法（代表値・度数分布表・ヒストグラム・箱ひげ図）で整理することができます。考察したり判断したりした理由について、数学的な表現を用いて説明する場面を設定しましょう。

中学校英語の調査結果

(1) 正答数分布状況



(県平均正答率は仙台市を除いた数値である)

調査結果概要

	宮城県 (公立)	全国 (公立)
対象生徒数	9,263人	893,528人
平均正答数	6.7問/17問	7.7問/17問
平均正答率	39%	46%
中央値	6.0問	7.0問
最頻値	4問	4問

(2) 平均正答率の推移

年度	正答率 (%)		
	宮城県 (公立)	全国 (公立)	かい離
令和5	39%	46%	-7
令和元	50%	56%	-6

領域別の平均正答率

学習指導要領の領域	問題数	正答率 (%)	
		宮城県 (公立)	全国 (公立)
聞くこと	6	52.9	58.4
話すこと	5	非公表	非公表
読むこと	6	45.2	51.2
書くこと	5	15.3	23.4

(3) 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		正答率 (%)		無解答率 (%)		正答率の かい離 (①-②)	無解答率の かい離 (③-④)
		(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと 「やり取り」	(4) 話すこと 「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	①宮城県 (公立)	②全国 (公立)	③宮城県 (公立)		
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○		79.6	79.0	0.1	0.1	0.6	0.0
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○		59.9	64.4	0.2	0.2	-4.5	0.0
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	○					○			○		40.4	49.8	0.2	0.2	-9.4	0.0
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	ア						○		○		53.4	61.1	0.2	0.2	-7.7	0.0
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	ア						○		○		34.4	41.2	0.2	0.2	-6.8	0.0
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	ウ						○		○		49.7	54.8	0.5	0.4	-5.1	0.1
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する		○					○		○		48.9	56.0	0.2	0.3	-7.1	-0.1
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する		○					○		○		57.7	64.5	0.3	0.3	-6.8	0.0
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する		ア					○		○		28.4	35.9	0.3	0.3	-7.5	0.0
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する		○					○		○		51.6	59.8	0.2	0.3	-8.2	-0.1
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する		イ					○		○		32.3	34.7	0.7	0.7	-2.4	0.0
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する		ウ					○		○		52.4	56.1	0.9	0.8	-3.7	0.1
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く				ウ			○		○		13.3	19.5	36.1	29.3	-6.2	6.8
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる				ア			○		○		28.7	40.4	8.8	6.6	-11.7	2.2
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる				ア			○		○		10.4	20.9	16.0	10.9	-10.5	5.1
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に置き換える				ア			○		○		20.3	29.0	34.1	24.5	-8.7	9.6
10	学校生活 (行事や部活動など) の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く				イ			○		○		3.6	7.4	27.9	21.4	-3.8	6.5

小学校では、中学年の「話す・聞く」力の素地を、高学年の「話す・聞く・読む・書く」力の基礎を養い、中学校へとつなげます。中学校では、小学校での言語活動の学習内容を発展させながら繰り返し指導し、基礎・基本の定着を図ります。

<外国語教育における「小中連携」の重要性>

学習指導要領に示される目標達成に向けて、小中連携を図りながら、系統性を踏まえた授業づくりが大切です。

<学習指導要領の目標>

小学校中学年	小学校高学年	中学校
言語活動 (実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝える活動) を通して指導する		
コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する	コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する	コミュニケーションを図る資質・能力を育成する



小学校から中学校まで継続的に、言語活動を通して児童生徒の資質・能力を育成することが大切です。

<学校質問紙調査結果から見える言語活動の実態>

(数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

() : 質問番号	中学校 質問事項(一部抜粋)	県	全国との差 県 - 全国
(51)	英語の授業において、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動をどの程度行いましたか。	66.1%	-10.7P
(52)	英語の授業において、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動をどの程度行いましたか。	76.2%	-10.7P
(54)	英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動をどの程度行いましたか。	60.8%	-13.4P
(55)	英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする言語活動をどの程度行いましたか。	60.8%	-14.6P

「言語活動」では、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定していきます。



<小中のつながりを意識した授業づくり>

参考：平成24年度～令和4年度小中連携英語教育推進事業 事業のまとめ(宮城県)より

- ① **伝えよう** → 小学校の先生：小学校の学習内容や指導法、教材等について中学校に情報提供
例 家庭学習、デジタル教科書の活用方法を共有する。
- ② **共有しよう** → 小・中学校の先生：目指す児童生徒の姿をゴールにした7年間の学びの連続性
例 Can-Do リストを作成し、「言語活動」を発展させていく。
- ③ **やってみよう** → 小・中学校の先生：中学校(小学校)の言語活動を意識した授業づくり
例 関連のあるテーマの言語活動を行う。
- ④ **取り入れよう** → 中学校の先生：小学校の言語材料を発展させた指導
例 小学校のチャンツ、small talk、成果物を発展的に活用する。

②の例



今日は「〇〇できる」ことを目標に頑張ろう！

小学校では、「I can ~.」を使って自己紹介したな。今回は、もっと詳しく伝えたいな。

③の例



児童生徒のこんな言葉を聞けたらいいですね！

小学校でやったチャンツで出てきた単語を使って話そう！

④の例



小学校高学年の外国語科では、中学年の外国語活動で、十分に聞いたり話したりさせた経験を踏まえて指導することが大切です。授業では、「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」に加え、「読むこと」として、音声で慣れ親しんだ語句等を絵や写真などの視覚情報を頼りに読ませたり、「書くこと」として、繰り返し話してきた語句や表現を書き写しさせたりしましょう。

単元構想アイデア例 小学校第6学年

単元名 6年生の思い出を発表しよう

言語活動 来年度、最高学年となる小学校5年生に、6年生で行った行事を紹介するために、一番思い出に残った行事についてポスターにまとめて発表する。

教材 Unit7 My Best Memory (NEW HORIZON Elementary English Course 6 東京書籍)

時

○ 単元を通した学習課題をつかみ、目標を立てる。

1



来年、最高学年になる5年生に向けて、6年生がどんなことをしてきたかポスターを作って伝えましょう。



言語活動を行う目的、場面、状況を伝え、学習課題を児童と一緒につくります。

○ 一番思い出に残った行事について発表するために必要な語彙や表現に出会う。



一番思い出に残っている行事は何ですか。

今まで学習した表現を使って、行事について伝えてみましょう。

○ 語彙や表現に慣れるために友達とやり取りを行い、話したことを1文ずつ書く。

2
6



友達と一番思い出に残った行事について話しましょう。



What is your best memory?

My best memory is our school trip.



Misa

[完成版]

友達に伝えたことを書いてみましょう。

指導のポイント 1時間ごとに話題を分け、一番思い出に残った行事は何か、何をしたか、楽しんだことは何かなどについて友達とやり取りをさせ、発表するために必要な語句や表現を繰り返し使用させていきます。

歌やチャンツ、インタビュー活動などを通して、音声で十分に慣れ親しませてから、1文ずつ自分が話したことを書き写させます。書き出しは教科書の英文手本として、丁寧になぞり書きをさせましょう。

My Best Memory

My best memory is our school trip.

We went to Fukushima in September.

We saw Tsurugajo Castle.

I enjoyed making Akabeko.

Misa

○ 発表する内容をポスターにまとめ、発表の練習をする。



We had Sports Day in May.

「in May」みたいに、「何月に」が分かると、もっと詳しくなるね。付け足して話してみよう！



7
8



2～6時目に1文ずつ書き写したものを基に、ポスターにまとめさせます。ペアを替えて複数回練習する中で、助言し合ったり、改善したりさせます。



イラストや写真などを入れると、より相手に伝わりやすくなります。

○ 5年生に、一番思い出に残った行事について発表する。



5年生に、一番思い出に残った行事をうまく伝えられたか振り返りましょう。

イラストを見せながら、伝えることができた！



発表する場が設けられない場合は、動画を撮影して5年生に見せることも考えられます。その場合は、5年生からの感想などのフィードバックをもらうことで学習の有用性が実感できます。

中学校第1学年の学習段階では、小学校での学習との円滑な接続がポイントとなります。「書くこと」の学習においても、小学校のときに慣れ親しんだ語句や表現などを用いて、聞いたり話したりする活動を十分に行ってから書かせることや、伝える内容と目的や場面、状況等とを関連させ、言語活動において語彙や文法事項を繰り返し活用させることが大切です。

授業アイデア例 中学校第1学年 小学校外国語科の学習を踏まえた、「書くこと」の言語活動の学習過程

言語活動 最近体験したことについて、行った場所やそこで楽しんだことなどをクラスで伝え合う活動を行う。

教材 Unit5 A Japanese Summer Festival Part3 体験したことを伝えよう(NEW HORIZON English Course 1 東京書籍)

Point 単元の学習に当たり、生徒が小学校でどのような言語活動を行い、どのような語句や表現を学習したかを確認します。

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を把握する。

Ms. Takahashi, your elementary school teacher, told me that you made a special album sheet last year. How nice!

What was your best memory?

Where did you go?

I see. You went to Fukushima. What did you enjoy?

School trip!

Fukushima.

I enjoyed making Akabeko.

My Best Memory

My best memory is our school trip.
We went to Fukushima in September.
We saw Tsurugajo Castle.
I enjoyed making Akabeko.

6年生のときに作った!

Oh, you enjoyed making Akabeko. Today you are going to communicate with each other about what you experienced, such as places you went to, things you enjoyed.

Point 小学校で行った言語活動について、やり取りをして振り返りながら、生徒が本時の活動に見通しを持てるようにします。

2. 絵やヒントワードを基に、小学校で慣れ親しんだ語句や表現を用いて、聞いたり話したりする活動を行う。

Follow the example, make pairs and tell each other about what you experienced with drawing pictures.

I want to the sea. I enjoyed swimming. I saw many fish. It was fun.

I went to the mountains with family. I enjoyed camping. I had BBQ. It was delicious.

Point 生徒の英語には間違いがあるかもしれません。活動の途中で教師がモデルを示し、気付かせることも考えられます。

3. 教科書の英文を積極的に活用し、意味ある文脈の中で、どのように表現されるのかを正しく理解する。

In the textbook, Meg is giving a speech about what she experienced yesterday. What did she talk about? When did she go to the summer festival in Sydney?

メグは、夏祭りに行ったことを話しているね。そういえば、fireworksって小学校で出ていたな。花火を見たんだろうね。

I went to Sydney festival in January. とあるから、1月だ。

Point 本文内容の場面と状況を押さえ、大切な部分を読み取れるようにします。生徒の学習段階を考慮し、「読むこと」の活動を通して文構造、特に主語と動詞を正しく捉えられるよう指導します。

4. 自分が最近体験したことについて、2の活動や教科書の英文を参考に伝え合い、伝えた内容を書いてまとめる。

I went to the mountain with my father. I enjoyed hiking. It was fun.

I went to the zoo. I saw lots of animals. I had a good time.

Point 書いてまとめる際には、書き出しをなぞり書きさせるなど、小学校での手立てを活用します。英文は板書等で提示し、生徒が正しく書くために参考にしたり、過去のことを話すときには動詞の形が変わることを理解したりできるようにします。

指導のポイント 当該単元で学習した語彙や文法事項のみを使用して表現する活動だけではなく、既習事項を含めた書くことの言語活動を、3年間通して適切に設定していくことが大切です。

令和5年度調査問題

9 (1) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

①〈先生と生徒の会話〉

A : Do you have any plans for summer vacation?

B : Yes, I (visit) my uncle in London. I can't wait!

A : Wow, that's nice!

②〈友達同士の会話〉

A : Oh, you have a new watch!

B : Yes, I got it yesterday.

A : (buy) the watch?

B : At a department store near the station.

(例) 〈友達同士の会話〉

A : I called you at eight last night.

B : Oh, sorry. I (do) my homework then.

[答え] was doing

宮城県の解答類型と反応率

①正答1 15.1% am going to visit
 正答2 12.2% will visit
 正答3 1.4% Am going to visit(大・小文字の書き分け等の誤り)
 誤答1 33.3% 例)am visit (基本的な文法事項等の誤り)
 誤答2 25.9% 例)can visit (未来表現の誤り)
 上記以外 3.3% 無解答 8.8%

②正答1 10.0% Where did you buy
 正答2 0.5% where did you buy(大・小文字の書き分け等の誤り)
 誤答1 32.6% 例)Where do you buy / Where you buy
 (時制や一般動詞の疑問文等の誤り)
 誤答2 27.1% 例)It's buy / You buy (疑問文の誤り)
 上記以外 13.8% 無解答 16.0%

宮城県平均正答率

①
28.7% 全国との差
 -11.6P

全国平均正答率 40.3%

②
10.5% 全国との差
 -10.4P

全国平均正答率 20.9%

問題解説

文法事項や言語の働きなどを理解して、正確に書くことができるかどうかをみる問題です。

※①は未来形(be going to)の肯定文 ②は疑問詞を用いた一般動詞

「正しく文を構成すること」「伝えたいことについて情報を正確に書くこと」がポイントです。

つまずきチェック

○ 場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書くこと。



令和5年度公立高等学校入学者選抜学力検査との関連

「文構造や文法事項を正しく用いて基本的な英文を構成すること」に課題が見られます。

(令和5年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果 P42 参照)

言語の正確さを高めるためには、様々な場面で既習表現に触れたり考えさせたりする機会を設け、「最終的に身に付けていく」というスタンスで長期的に指導することが大切です。「書くこと」についても、繰り返し指導をしながら適宜、正確さを高めていくことが必要です。

授業アイデア例 中学校第2学年「書くこと」の学習活動

言語活動 今度の夏休みの予定について友達に質問し、報告文を作成する活動。(言語材料 未来形:be going to)
 教材 Unit1 A Trip to Singapore (NEW HORIZON English Course 2 東京書籍)

Point 最初に単元のねらい(未来形を使って表現できるようになる等)を確認し、ねらいを達成させるための単元構想を考えます。その上で、どこで「書くこと」の指導に重点を置くかの見通しを持って計画を立てます。

活動例1 インタビュー活動で収集した情報をもとに、友達についての報告文を書く。



To write about your friend's plan, ask some questions to your friend and get more information. If you finish writing, check your English. Also, exchange your worksheets in pairs.



Kenta

We are going to have a summer vacation soon.
 What are you going to do during summer vacation?

I'm going to go to Tokyo. I want to visit Asakusa.

Good. What are you going to do there?



I'm going to go to see *Kaminarimon* and I want to eat *Tendon* there. How about you?



Point

生徒は新出文法を繰り返し練習し、活用する活動を通して理解を深めます。最初は間違いを恐れずに、自分の考えを積極的に書くように励ましましょう。

健太さんの夏休みの予定

Kenta is my friend. ~~I am~~ going to ~~goes~~ to Tokyo during this summer vacation.

~~I am~~ going to visit Asakusa, Kaminarimon. ~~I~~ He is ~~want~~ to eat Tendon in Asakusa. He wants

活動例2 書いた英文を自分で修正したり、ペアでチェックし合ったりする。



Exchange your reports in pairs and rewrite. When you rewrite, draw a line to delete words, and add words.



主語が He になるから、be 詞は am ではなくて is を使うよ。

未来を表す be going to の後ろには動詞の原形がくるよ。



そうか！未来を表す表現が分かってきた。

Point 新出文法を扱いつつ、既習事項(be 動詞と一般動詞の区別や時制等)との違いに気付かせながら生徒自身が繰り返し使う場面を設定します。また、意味のある英文で練習することが大切です。



「He want to eat・・・」でいいかな？

あ！He が主語だから want に三人称単数の s をつけます。間違いやすいから気を付けよう！



Point 友達の英文を読んで、間違い等について教え合う場面をつくりましょう。また、自分の英文の参考になるものは追加するなどして、修正することを伝え、既習事項を使って様々な表現に触れさせましょう。
 ※教師は、英文の間違いに対して、すぐに訂正せずに、生徒に問い掛けて気付かせます。
 ※ALTの協力を得て、生徒の英文に正確さを求めることも考えられます。

指導のポイント 生徒が興味・関心を持つような目的、場面や状況を示し、自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動(手紙、日記、レポート等)を計画的、継続的に取り入れ、「書く」時間を確保しましょう。

育成を目指す資質・能力を明確にし、 単元を構想しよう。

国語科では、これまで同様、言語活動を通して指導事項に示された内容を確実に育成する授業を目指します。単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で、育成を目指す資質・能力を明確にし、それを育成するのに適した言語活動を設定するとともに、児童生徒の変容を適切に把握できるよう評価場面や評価方法を工夫することが大切です。

1 単元で取り上げる指導事項の確認

★単元で取り扱う指導事項の年間指導計画での位置付けを確認しましょう。

★指導事項、言語活動例について学習指導要領解説国語編で確認しましょう。

2 単元の目標と言語活動の設定

(1) 単元の目標を設定する。

(2) 単元の目標を実現するために適した言語活動を位置付ける。

(1) 単元で重点的に取り上げる指導事項を基に、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」について単元の目標を設定します。

(2) 単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして具体化します。

★児童の実態（学習履歴、習熟状況）を確認しましょう。

★言語活動が十分に行われる教材を選定しましょう。

★言語活動は、資質・能力を育成するための手段であることに注意しましょう。

3 単元の評価規準の作成

● 「単元の目標」と「評価の観点」は、〔知識及び技能〕は「知識・技能」、〔思考力、判断力、表現力等〕は「思考・判断・表現」と対応しています。単元で重点的に取り上げる指導事項を基に、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準を作成します。

● 「主体的に学習に取り組む態度」については、「① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と、「② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」の両方を適切に評価できる評価規準を作成します。

4 単元の「指導と評価の計画」の作成

(1) 各時間の具体的な学習活動を構想する。

(2) 単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定する。

● 単元を見通して、評価の場面や方法を工夫し、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにします。

★単元を見通して、主体的・対話的で深い学びの実現が図れるにしましょう。

5 評価の実際と手立ての想定

(1) 実際の学習活動を踏まえて「B と判断する状況」を具体的に想定する。

(2) 「C と判断する状況への手立て」を想定する。

★教師自らが設定した言語活動に実際に取り組み、目指す資質・能力を育成できるか、また、適切に評価できるかを検討し、学習過程や学習課題、指示・発問等を見詰め直しましょう。

「単元名」は、当該単元において、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのかを、児童生徒が理解し、学習活動を見通せるように工夫します。

「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の目標は、基本的に学習指導要領の指導事項をそのまま受け、文末を「～ができる。」として示します。

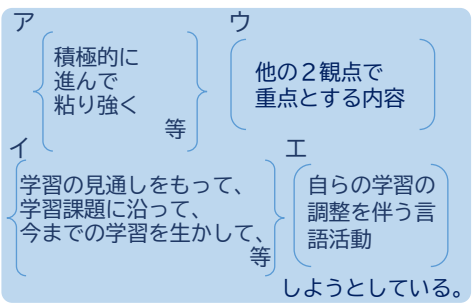
「学びに向かう力、人間性等」の目標は、いずれの単元においても当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標のうち「言葉がもつよさ～伝え合おうとする。」までをそのまま受けて示します。

「4 指導に当たって」は、単元の位置付け、単元構想の意図、言語活動・教材の特徴、児童生徒の実態、指導方策などについて記述します。

「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準は、基本的に学習指導要領の指導事項をそのまま受け、文末を「～している。」とし、「思考・判断・表現」にあっては、冒頭に指導する領域名を「（領域名）において、」と明記します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、
① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行うおとしている側面
② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面
という2つの側面から評価することが求められます。

したがって、当該単元において、他の2観点において重点とする内容（＝粘り強さを発揮してほしい内容）と、自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を考え、単元を構想し、評価規準を設定することが大切です。
次のアからエの内容を全て含め、単元の目標や学習活動等に応じて、その組合せを工夫します。



「主体的・対話的で深い学び」の3つの観点から単元の指導と評価の計画を確かめましょう。
① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

- 単元名
おすすめの和の文化について調べ、そのみりよくを伝えよう。
- 単元の目標
(1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。 [知識及び技能] (1)カ
(2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)ウ
(3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)オ
(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]
- 取り上げる言語活動と教材
言語活動 学校図書館などを利用し、複数の本などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する。 (関連：[思考力、判断力、表現力等] C(2)ウ)
教材 「和の文化を受けつぐ—和菓子をかざる」(文 中山 圭子) (東京書籍「新しい国語 五」)
- 指導に当たって
(1) 単元観

～ 略 ～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 (1)カ	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	①粘り強く説明の進め方や資料の活用の仕方について考え、今までの学習を生かしてパンフレットを作ろうとしている。 言語活動そのものでなく、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意味的な側面を評価します。

6 単元の指導と評価の計画（全10時間）				
次	時	主たる学習活動	評価規準	評価方法等
1	1	○学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しを持つ。 ○「和の文化を受けつぐ」を通読し、筆者の説明の仕方について気付いたことをまとめ、伝え合う。 ○グループで、身の回りの和の文化からパンフレットで何について取り上げるかを話し合う。		
2	2・3	○文章全体を、接続する語句に注意して読み、文章の構成を表にまとめる。 ○筆者が和の文化について3つの観点で説明している意図を考える。	[知識・技能①]	ノート
2	4・5	○文章と写真・図表とを関連付けて読み、写真・図表の効果について考え、文章にまとめ、伝え合う。 ○筆者が和の文化の魅力伝えるためにどのような工夫をしているかを考え、ノートに書き出す。	[思考・判断・表現①]	ミニ原稿用紙
3	6・7	○グループで、筆者の説明の仕方、資料の活用の仕方について確かめ合い、パンフレットで伝えたいことや取り上げる事物、資料について話し合う。 ○学校図書館やインターネットなどで必要な情報を収集し、ノートに書き出す。		
3	8・9	○伝えたいこととの関連を考えながら、パンフレットに掲載する情報や資料を選んだり組み合わせたりする。 ○収集した情報を基に、説明の文章を書く。 ○グループで、それぞれ説明の文章を読み合い、パンフレットとして仕上げる。	[主体的に学習に取り組む態度①]	観察・パンフレット・ノート
3	10	○他のグループが作成したパンフレットを読む。 ○「和の文化を受けつぐ」を通読し、和の文化の魅力伝えるために筆者がどのような工夫をしているかを考え、文章にまとめる。	[思考・判断・表現②]	ミニ原稿用紙

単元を見通し、どの場面で、どの評価規準に基づいて、どのような方法で評価するか検討します。児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価することが重要です。

7 本時の指導

略案の作成ポイント

はじめに (重要)

○単元で取り上げる指導事項を年間指導計画で確認し、学習指導要領解説国語編(以下、解説国語編)でその内容を押さえます。

1 単元名

○児童生徒が学習活動を見通せるように、分かりやすい表現にしましょう。

2 単元の目標

○解説国語編にある「指導事項」を確認します(文末表現に注意)。
○思考力・判断力・表現力等の単元目標は、1つの領域に絞って設定します(例では「読むこと」で設定)。

3 言語活動

○国語科では「言語活動を通して資質・能力」を育成します。解説国語編にある「言語活動例」を参考に、児童生徒の実態を踏まえ、資質・能力の育成につながる活動を設定します。

4 単元の指導計画

○単元の指導計画における本時の位置付けを確認できるようにします。
○評価計画を併せて記載する場合もあります(評価計画自体は「指導と評価の一体化」のために必須)。

5 本時の指導

(1) 本時の目標
○本時のゴールとなる児童生徒の姿を考えて設定します。
(2) 本時の指導に当たって
○本時の指導の主要な流れや指導のポイント、児童生徒の実態などを簡潔にまとめます。
(3) 指導過程
○本時のめあて(課題)は、児童生徒が本時のゴールを見通すことができるように設定します。
○主な発問は、本時のめあてに迫ることができるものを工夫します。
○予想される児童生徒の反応は、児童生徒の実態を踏まえた反応や引き出したい反応を書きます。
○指導上の留意点は、各学習活動において、教師がどのような指導や働きかけを行うのかなどを具体的に書きます。
○評価規準は、本時の目標を踏まえ、Bと判断できる、児童生徒の具体的な姿を想定します。そうすることで、児童生徒の学習状況を的確に見取り、適切なフィードバックにつなげることができます。

例

第4学年 国語科学習指導案 略案

実施日:令和5年6月15日(木) 3校時
授業者:教諭 ○○ ○○

- 1 単元名 人物の変化をとらえよう
- 2 単元の目標
(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、…(略)… [知識及び技能] (1)オ
(2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、…(略)… [思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、…(略)… 「学びに向かう力、人間性等」
- 3 取り上げる言語活動と教材
言語活動 物語を読み、中心人物の気持ちがどのように変化したのかを考え、伝え合う活動。
(関連:[思考力、判断力、表現力等] C(2)ウ)
教材 「走れ」 (東京書籍「新しい国語 四」)
- 4 単元の指導計画(全10時間)
第1次 ○学習のねらいや進め方を捉え、学習の見直しを持つ。(1時間)
第2次 ○場面ごとに出来事を捉え、それぞれの出来事を関連づけて中心人物の気持ちの変化を捉える。(5時間)
○中心人物の気持ちがなぜ変化したのか、考えたことを伝え合う。(3時間)
第3次 ○単元の学習を通して学んだことを振り返る。(1時間)

5 本時の計画 (7/10時)

- (1) 本時の目標
物語の山場で大きく変化する中心人物の気持ちについて、想像し文章にまとめることができる。
- (2) 本時の指導に当たって
走ることに関連する叙述から変化する前ののぶよの気持ちと変化した後の気持ちを考えさせ、対比させることにより、気持ちが大きく変化していることを捉えさせる。その後、走り終わる時の場面の叙述やそれまでの場面と結びつけながら、変化したのぶよの気持ちを想像させる。
- (3) 指導過程

段階	学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ★評価(※方法)
導入	1 前時を振り返り、のぶよの気持ちが大きく変わった場面を確認する。	○場面ごとにノートに整理したのぶ代の気持ちから、走ることへの気持ちに変化した場面を見付けさせる。
	2 本時のめあてを確認する。	○変化するのぶよの気持ちを考えていくことを確認する。
展開	3 本文を読み、走ることに對するのぶよの気持ちを考える。 のぶよは走ることをどのように思っていたのかが分かる言葉を見付けましょう。 ・～	○「体が重い」「もう走れない」などの言葉から、走ることに後ろ向きになっていく気持ちを捉えさせる。
	4 大きく変化したのぶよの気持ちについて話し合う。 のぶよは、お母ちゃんとけんじの声を聞き、走ることに對する気持ちがどのように変わりましたか。 ・～	○お母ちゃんとけんじの声をきっかけにして気持ちが大きく変化したことを押さえる。 ○「すわっと軽くなる」「どこまでも走れる」などの展開3の言葉と対比させながら、走ることに前向きになっていく気持ちを捉えさせる。
	5 「ラスト」という言葉が誇らしく聞こえたときののぶよの気持ちを想像し、文章に書いて伝え合う。 「ラスト」という言葉が誇らしく聞こえたのはなぜだと思いますか。のぶよの気持ちを想像して文章にまとめましょう。 ・～	○「ラスト」「誇らしい」の言葉の意味を押さえ、自己肯定感が高まり、大きく変化したのぶよの気持ちを、これまでの出来事と結びつけながら想像させる。 ○友達のを考えを聞き合うことで、のぶ代の気持ちへの想像を広げさせる。 ★中心人物の気持ちを表す言葉から気持ちが変化した部分を捉え、変化した気持ちについて想像して文章にまとめている。【思考・判断・表現】 (※ノート、行動観察)
(以下省略)		

(4) 本時の評価

評価規準【観点】	十分満足できる(A)	努力を要する児童(C)への手立て
中心人物の気持ちを表す言葉から気持ちが変化した部分を捉え、変化した気持ちについて想像して文章にまとめている。【思考・判断・表現】	「母」や「けんじ」についての複数の叙述と関連づけて、のぶよの心情を多様に想像を広げて読んでいる。	「母」か「けんじ」どちらかに着目させて場面ごとの出来事を振り返らせ、そのときののぶよの気持ちとの違いを考えさせる。

育成を目指す資質・能力を明確にし、 単元を構想しよう。

算数・数学科では、**数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して**、数学的に考える資質・能力を育成することを目指します。

単元や題材などの内容のまとまりの中で、育成を目指す資質・能力を明確にし、数学的な見方・考え方を働かせた学習活動を設定するとともに、児童生徒の変容を適切に把握できるよう評価場面や評価方法を工夫することが大切です。

1 「内容のまとまり」ごとに「目標」を確認

☆育成を目指す資質能力の明確化

学習指導要領解説等を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を明確化します。

2 単元の目標の設定

☆単元の目標を確認

「内容のまとまり」が**そのまま単元となる場合と幾つかの単元に分かれる場合**に留意し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」について単元の目標を設定します。

3 単元の評価規準の作成

☆「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」から「単元の評価規準」を作成

算数科においては、「内容のまとまり」をそのまま単元とするには適さない場合がある。そのため、「**具体的なまとまりごとの評価規準**」を作成し、それをもとに「単元の評価規準」を作成する。

☆「観点ごとのポイント」を踏まえる

(1)「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価

「評価の観点」については、

学習指導要領に示す目標や内容の〔知識及び技能〕は、「知識・技能」と、〔思考力、判断力、表現力等〕は「思考・判断・表現」と対応しています。

(2)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、

① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組**を行おうとする側面

② ①の粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整しようとする側面**

の両方を適切に評価できる評価規準を作成します。

4 単元の「指導と評価の計画」の作成

☆各時間の具体的な学習活動の構想と評価計画

単元を見通して、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを計画します。評価の場面や方法を工夫し、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにします。

5 評価の実際と手立ての想定

☆本時の評価の設定

どのような評価資料をもとに「Bと判断する状況」と評価するかを設定し、「Aと判断する状況」「Cと判断する状況への手立て」を想定します。

主体的・対話的で深い学びの実現 ～第3学年 算数科学習指導案(例)～

【単元名】

単元を作成する際には、「内容のまとまり」を、幾つかに分割して単元とする場合やそのまま単元とする場合、幾つかの「内容のまとまり」を組み合わせて単元とする場合があります。

【単元の目標】

学習指導要領から「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の目標は、基本的に学習指導要領の指導内容を受け、文末を「～ができる」と示します。「学びに向かう力、人間性等」の目標は、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向けた粘り強い取組と自らの学習を調整しようとする姿を受け、「～しようとする」と示します。

【単元について（単元観）】

学習指導要領の位置付けを押さえ、育成を目指す資質・能力を捉えます。

【児童生徒の実態（児童生徒観）】

単元や算数・数学に関する実態を捉えます。レディネステスト等の結果を分析し、児童生徒のよさや課題、配慮事項を示します。

【指導に当たって（指導観）】

単元の捉え、児童生徒の実態を踏まえ、単元構想の意図や数学的活動の設定を明確にし、指導方針、具体的手立て等を記述します。

【単元の評価規準】

「知識及び技能」の評価規準は、学習指導要領に示された内容をもとに、その文末を「～している」「～できる」とし、「思考力・判断力・表現力等」の評価規準は、学習指導要領に示された内容をもとに、その文末を「～している」と示します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、観点の趣旨をもとに、指導事項を踏まえて、その文末を「～しようとしている」として示します。

【評価の計画】

単元を見通し、どの場面で、どの評価規準に基づいて、どのような方法で評価するかを計画します。毎時間3つの観点全てを評価するのではなく、その時間に評価する観点を明確にします。児童生徒全員の学習状況について記録に残す場面を精選し、次時の指導に生かす評価をしていきます。

1 単元名「余りのあるわり算」

2 単元の目標

(1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。 【知識及び技能】

(2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

(3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に生かそうとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 指導に当たって

(1) 単元について(単元観)

(2) 児童生徒の実態(児童生徒観)

(3) 指導に当たって(指導観)

4 単元の評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。	①除数が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。	①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。
②除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。	②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	②除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。
③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。		

5 単元の指導と評価計画(全10時間) (途中略)

時	主たる学習活動	評価規準(評価方法) 例		
		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
1・2	余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見付け方を具体物や図などを用いて考える。			・態① (行動観察、ノート分析)
3	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。	・知①(ノート分析) ・知③(ノート分析)		
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。		○思① (行動観察・ノート分析)	
9	学習内容の定着を確認する。(評価テスト)	○知①②③ (ペーパーテスト)	○思② (ペーパーテスト)	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態② (ノート分析)

6 本時の計画

(1) 目標

(2) 本時の指導に当たって

(3) 指導過程 (略)

(4) 本時の評価

Aと判断する状況	Bと判断する状況	Cと判断する状況への手立て
日常の問題場面から、余りがある場合でも除法を用いて考えることができることや、割る数の九九の段を使って求められることを説明している。	余りがある場合でも、除法を用いてよいことや、答えの見付け方を具体物や図などを用いて考えている。	既習の除法の答えの求め方を基に、具体物を操作させながら、答えの見付け方を考えさせる。

(5) 準備物 (6) 板書計画 (略)

【本時の評価】「Bと判断する状況」を設定し、「Aと判断する状況」「Cと判断する状況への手立て」を想定します。

主体的・対話的で深い学びの実現のために

主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、単元全体を見通しながら授業を構成していく必要があります。主体的・対話的で深い学びは、1単位時間の授業の中で必ず全てが実現されるものではありません。単元などのまとまりの中で、次のような視点が大切になります。

- ①主体的に学習に取り組めるように学習の見通しを立てたり、振り返ったり、学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
- ②対話によって自分の考えなどを広げたり、深めたりする場面をどこに設定するか
- ③学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか

略案の作成ポイント

はじめに（重要）

○学習指導要領解説算数編(以下、解説算数編)にある当該学年の「目標及び内容」を確認します。

2 単元の目標

○【知識及び技能】【思考力・判断力・表現力等】は、文末を「～できる」と示します。
○【学びに向かう力、人間性等】は、当該学年の「目標(3)」を踏まえて、文末を「～しようとしている」と示します。

3 指導に当たって

○「(1)児童の実態」は、授業における児童の様子や本単元に関する学習の定着度などを示します。レディネステスト等の結果の分析があると説得力が増します。
○「(2)指導観」は、最初に、解説算数編にある該当学年の「目標及び内容」を踏まえて記述します。次に、児童の実態を踏まえて、本時の数学的活動などについて簡潔に記述します。

4 本時の計画

○「(1)目標」は、「(4)本時の評価」と整合性が取れていることが大切です。
○「(2)本時の指導に当たって」は、本時の学習活動を中心に、「(3)指導観」の具体的な方策を簡潔に記述します。
○「(3)指導過程」は、「主な発問・指示」「予想される児童の反応」を基に構想します。児童の反応については、正しい考えや答えだけでなく、誤っている考えや答えを想定しておくことが大切です。児童のつまづきを想定することによって、授業者の望む授業展開が期待できます。また、「(4)本時の評価」の「努力を要する児童(C)への手立て」も具体的になります。
○「形態」は、児童の考えを広げたり深めたりする場面等に合わせて適切に設定します。「協働的な学び」を意識した授業づくりが大切です。
○「評価」は、「(4)本時の評価」について、児童を見取る場面に合わせて記述します。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の評価では、評価場面が授業の終末に偏ることのないよう注意が必要です。
○「(4)本時の評価」は、「(1)目標」を踏まえて記述します。「Aと判断する状況」や「Cと判断する状況への手立て」が「(3)指導過程」に記述されているか確認します。その時間に評価する観点が多くなるほど、正しく評価することが難しくなります。観点を一つにしぼるなどの工夫も大切です。

第6学年 算数科学習指導案 略案

例

実施日：令和5年10月18日（水）
授業者：教諭 ○○ ○○

1 単元名「円の面積」（○○書籍 新しい算数6）

2 単元の目標

- (1) 円の面積について、求め方や計算で求められることを理解し、円の面積を求める公式を用いて円や複合図形の面積などを求めることができる。 [知識及び技能]
- (2) 図形を構成する要素などに着目し、…（略）…。 [思考力、判断力、表現力等]
- (3) 円の面積の求め方を簡潔かつ…（略）…。 [学びに向かう力、人間性等]


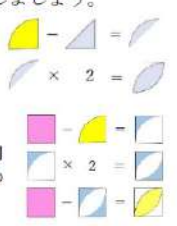
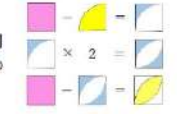
3 指導に当たって

- (1) 児童の実態（第6学年○組 ○名）
本学級の児童は、積極的に話合ったり、問題が分からない友達に進んでアドバイスしたりするなど、互いに助け合い、みんなで…（略）…。レディネステストの結果では、…（略）…。
- (2) 指導観
円の面積の求め方を既習の公式を基に考えさせ、円の面積を求める公式を導き出していく。その際、単に公式を使いこなすだけでなく、第5学年までに学習してきた…（略）…。そして、自分の考えについて根拠を基に説明する際は、課題提示や自力解決、学び合いを円滑に行うために、ICT活用が有効であるとする。何度も書き直すことができるICTの特性を…（略）…。

4 本時の計画（4/6時）

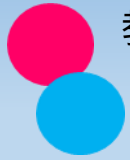
- (1) 目標
多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて面積の求め方を説明することができる。
- (2) 本時の指導に当たって
本時では円の形が入っている複合図形の面積を求めることを確認し、複合図形を構成している既習の図形は何かを把握する。…（略）…。また、タブレット端末を使用して本時の問題の複合図形やそれを構成している既習の図形を自由に動かすことができるワークシートを配布し、…（略）…。

(3) 指導過程

段階	学習活動	形態	○指導上の留意点 ★評価
導入 5分	1 本時の問題を知る。 下の図で、白色と黄色でぬった部分の面積はどちらが大きいでしょう。 	一斉	○どちらの面積が広いかを考えさせることによって、問題を解く必要感を持たせる。
	2 課題を捉える。 複雑な形の図形の面積の求め方を考えよう。	一斉	○形を見て児童がつぶやいた図形の名前を使用して課題を作ることで、学習に対する意欲付けを行う。
展開 35分	3 解決の見通しを立てる。 ○このまま面積を求めることはできますか。 ◆円の面積は求めることができるけど、この形を求めたことはないからできないな。	一斉	○このままでは面積を求めることができないことを確認し、3つの式を見て解き方を考えていくことを伝える。
	4 自力解決する。 ○見付けた図形を生かして、グループで決めた面積を求める式を説明しましょう。 ◆対角線を引くことで見通せる部分を求め、それを2倍して求める。  ◆白色のところに目を向けて、引いて面積を求める。  (以下省略)	個別	○タブレット端末を使用して図形を移動したり重ねたりしながら考えさせることで、数学的な表現を生かして自力解決できるようにする。 ★円を含む複合図形の面積について、既習の図形の面積を基にして考え、図や式を用いて説明している。【思考・判断・表現】

(4) 本時の評価

評価規準【観点】	十分満足できる児童（A）	努力を要する児童（C）への手立て
○円を含む複合図形の面積について、既習の図形の面積を基にして考え、図や式を用いて説明している。【思考・判断・表現】	○円を含む複合図形について、既習事項や図を生かして考え、数学的な表現を使って分かりやすく説明することができる。	☆具体物やICTを用いて実際に操作させながら考えさせる。



学校現場の混乱

学校現場では、新しい学習指導要領の完全実施を受け、その趣旨の実現を目指す取組が行われています。

しかしながら、今回の改訂のポイントとなるコンテンツベースからコンピテンシーベースへの転換に関わって、「コンピテンシー(資質・能力)ベース」とはどのようなことか?と問われると、明確に答えられない状況も見られます。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指す学校研究が各地で行われていますが、算数・数学科における「主体的、対話的で深い学び」とはいったいどういうものかについての共通理解がなされないまま、「主体的」を単に児童生徒が課題意識を持って取り組むというように捉えてしまったり、「対話的」をペアやグループでの対話を取り入れればよいというように誤った捉え方をしてしまったりすることで、学力向上を志向した授業改善につながっていない状況が見られます。また、そもそも深い学びが目指されていないという指摘もあります。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す取り組みを始めようとしている地域では、先行実践の方法だけを取り入れようとして、かえって学習の質が低下することに対する懸念も、聞かれます。

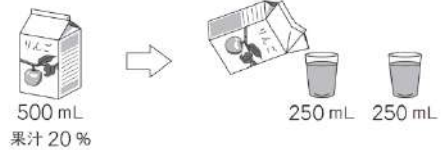
手続き的理解から概念的理解を志向した授業へとシフトしましょう。

ここでは全国学力・学習状況調査の結果をもとに、本県の算数・数学科の学習指導上の課題について考えていきましょう。

次の問題は、令和4年度全国学力学習状況調査

算数大問2(3)です。二組の数量の割合が等しくなることと比例との関わりについて問われています。宮城県(仙台市を除く)の**正答率は19.1%**です。

(3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。



250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまどめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上のアにあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

この問題場面では、飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になったとき、含まれる果汁の量も $\frac{1}{2}$ になるわけですから、飲み物に対する果汁の割合は変わりません。

この理解があつてこそ、割合を用いて比較ができる理由がわかるのです。バスケットボールのフリースローの場面で考えてみましょう。10本投げて6本成功したAさんと、5本投げて3本成功したBさんがいます。2人のうまささを割合を用いて次のように比べることがあります。

Aさん $6 \div 10 = 0.6$ 成功率 60%

Bさん $3 \div 5 = 0.6$ 成功率 60%

割合が同じだから同じうまさ

割合 0.6 の意味は、基準量(投げた数)を1と見

たとき、比較量(入った数)がどれだけにあたるかを表した数です。Aさんの成功率0.6は10を単位にして6を測定した結果が0.6であることを表しています。同様にBさんの成功率0.6は、5を単位にして3を測定した結果が0.6であることを表しています。

つまり、異なる単位で測定した値を比較して、2人が同じうまさだと結論付けているのです。1年生の長さの学習では、鉛筆6本分の長さで消しゴム6個分の長さを同じとはしてきませんでした。

では、割合でうまさを比べてよいのはなぜでしょうか。5本投げて3本入るうまさのBさんは、また5回投げたら3本入ると仮定するのが妥当でしょう。つまりBさんのうまさなら10回投げたら6本入ると考えるのが妥当です。投げた本数が10本にそろえば、入った本数でうまさを比べることができます。でも比較したい人が増えたらそろえるのは大変です。

振り返ってみると、同じうまさを考えるとき、投げた本数が〇倍になったら入る本数も〇倍になるという仮定をおいていることがわかります。つまり、投げた本数と入った本数の間に比例関係を仮定しているのです。比例する二量の関係に目を向けると、比例する二量 x 、 y において、 $y \div x$ は、常に一定の数(比例定数)になります。この値を用いてうまさを比較しているのです。

授業では「割合の求め方」「比べられる大きさの求め方」「もとにする大きさの求め方」のように「求め方」ばかりに光が当たってしまうことがあります。手続きを教え、できるようになったことを以て、算数・数学の学びが成立したと考えてしまうことがあります。本県の算数・数学科の授業では「できること」「問題が解けること」のみに関心が向けられがちです。「わかること」「わかり方」にも目を向けていきたいと思えます。

主体的、対話的で深い学びを「算数・数学科における主体的、対話的で深い学び」として、捉え直しましょう

学校研究を授業改善、学力向上に繋げるためには、教科における主体的、対話的で深い学びがどういふものかを理解することが不可欠です。ここでは、算数科における「主体的、対話的で深い学びとはどういふものか」について。学習指導要領解説(pp.322-323)をひもとき、整理してみましよう。

★主体的な学びとは・・・

算数科では、児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見出したりするなどの「主体的な学び」。

★対話的な学びとは・・・

数学的な表現を柔軟に用いて表現し、それを用いて筋道を立てて説明し合うことで新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことでよりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりするなど、自らの考えや集団の考えを広げ深める「対話的な学び」。

★深い学びとは・・・

日常の事象や数学の事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりするなど、新たな知識・技能を見いだしたり、それらと既習の知識と統合したりして思考や態度が変容する「深い学び」。

今一度、授業のあたり前を見直し、算数・数学科における深い学びの実現を目指していきましょう。小学校では、「教材に対する深い理解」、中学校では、「解き方を教える授業からの脱却」がカギになると考えます。



市川 啓 (いちかわ ひらく)

宮城教育大学大学院教育学研究科 准教授

埼玉県の小学校教員を経て、山形大学地域教育文化学部講師、准教授。平成29年7月より現職。専門は、乗法概念領域の教授・学習。令和2年公益財団法人 日本教材文化研究財団調査研究シリーズNo.82「4 算数科授業における『数学的な見方・考え方』の働きと教師の役割」等を執筆。

「学校教育に期待すること」

これから求められるのは、多面的な思考ができ周りにフラットでいられることではないかなと思います。子供たちの成長には、関わる大人の多様性が重要な意味を持ちます。コミュニティスクールが始まり、学校運営に地元の方々にも加わっていただくようになりました。

学校としては戸惑われることもあると思います。ですが、子供たちの笑顔あふれる未来のために、今まで学校が抱えていた課題を地域一丸となり解決できるよう、互い一歩踏み出し多面的に考えていけることを期待します。

宮城県PTA連合会
常任理事 横山奈緒子

「子供の声を受け止め、適切な支援をすること」「子供をほめること、認めること」など、「子供の学びを支援する5つの提言」の内容は、当センターが担っている福祉に関する取組を進める上でも大切な視点が含まれていると思います。

この報告書が活用され、「5つの提言」が促進されますことを期待します。当センターにおいても、引き続き、教育・福祉の連携による取組を進めてまいります。と考えていますので、御協力をお願いします。

宮城県子ども総合センター
所長 山内 好尋



令和5年度 宮城県検証改善委員会 委員

岩沼市立岩沼北中学校	教頭	小山内正諭	宮城県総合教育センター	副所長	田中 政弘
登米市立石森小学校	主幹教諭	高橋 幸恵	宮城県総合教育センター	副参事	伊藤 拓巳
宮城県教育庁義務教育課	課長補佐	日野 英信	宮城県総合教育センター	次長	永野 孝雄
宮城県大河原教育事務所	主幹	荒 美智代	宮城県総合教育センター	次長	齋藤 光
宮城県仙台教育事務所	主幹	田中 歩	宮城県総合教育センター	主幹	下山絵美子
宮城県北部教育事務所	主幹	中里 ゆり	宮城県総合教育センター	主幹	遠藤 淳人
宮城県東部教育事務所	次長	大友 明美	宮城県総合教育センター	主幹	戸羽 賢一
宮城県気仙沼教育事務所	主幹	齋藤 友靖	宮城県総合教育センター	主幹	永原 啓嗣
			宮城県総合教育センター	主幹	加藤 裕樹

令和5年度 宮城県検証改善委員会 オブザーバー

東北大学加齢医学研究所	教授	瀧 靖之	宮城県PTA連合会	常任理事	横山奈緒子
宮城教育大学大学院教育学研究科	准教授	市川 啓	宮城県子ども総合センター	所長	山内 好尋

発行年月 令和5年11月

宮城県総合教育センター 名取市美田園2丁目1番4号 TEL 022-784-3541

